

科目名	教師論	科目コード	W61001	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
		科目ナンバリング	T-TLFU2-02. NK		30時間				
区分	資格関係科目	担当者名	松橋 俊輔			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>現代社会における教職の意義と役割、身につけるべき資質能力等について、主体的・対話的に学び、考える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>								
到達目標	<p>1) 現代の日本における教師という職業の諸条件に関する知識を得る。</p> <p>2) 教師とは何かについて、現代の動向を踏まえつつ考えを深める。</p> <p>3) 教師として生きることの意味や困難や喜びについて様々な知識や事例にもとづいて考える。</p>								
授業計画									
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	ガイダンス		・本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明 ・受講者間での自己紹介						
第2回	教師をめざすということ		・教職課程の見直し ・教員採用試験について						
第3回	中等教育の教職の魅力 〔教科書第2章〕		・中学校教師の仕事とその魅力 ・高校教師の仕事とその魅力					ディスカッション	
第4回	日本の教職の特徴 〔教科書第3章〕		・教員の数や性別 ・教員の勤務形態・社会的地位・給与 ・教員の職務内容 ・学校文化と社会的背景					ディスカッション	
第5回	教師像の史的転回 〔教科書第4章〕		・聖職者としての教師 ・労働者としての教師 ・技術的熟達者としての教師 ・専門家としての教師					ディスカッション	
第6回	教員の服務 〔教科書第5章〕		・設置者と適用法 ・服務と処分 ・職務上の義務 ・身分上の義務					ディスカッション	
第7回	教員の権利と身分保障 〔教科書第6章〕		・労働条件をめぐるルール ・労働基本権制限をめぐる問題 ・教員の身分保障					ディスカッション	
第8回	学び続ける教師 〔教科書第7章〕		・教え手から学びの専門家へ ・教員研修制度 ・学校内外での学び ・キャリアの形成と研修					ディスカッション	
第9回	チームとしての学校 〔教科書第8章〕		・「チームとしての学校」の3つの願い ・組織構造 ・未来の教師像					ディスカッション	
第10回	専門家としての教師 〔教科書第9章〕		・「教え主義」の呪縛 ・「教え主義」からの脱皮 ・「学びの場」を生み出す教師					ディスカッション	
第11回	子どもが〈いのち〉に見える教師 〔教科書第10章〕		・東日本大震災が変えた「子ども観」 ・「子どもを理解する」ということ					ディスカッション	
第12回	いじめに向き合う 〔教科書第11章〕		・日本の子供たちは幸せなのか ・いじめをなくすには ・自尊感情を培うには					ディスカッション	
第13回	性の多様性をめぐる課題 〔教科書第12章〕		・性の多様な発達 ・学校・教師のこれからの課題 ・複合的な「私」と「多様性」					ディスカッション	
第14回	「教える」ということの意味 〔教科書第13章〕		・「資質・能力」の意味と論点 ・本来の「コンピテンシー」とは？ ・「教える」とは？					ディスカッション	
第15回	まとめ		・授業全体の総括						
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の発表・議論への貢献：50%</li> <li>・期末試験：50%</li> <li>・ミニッツペーパー：適宜加点</li> </ul>								
課題等	・ミニッツペーパーに対しては、次回授業冒頭においてフィードバックを行う。								
事前事後学修	・授業前にシラバスに記載された教科書の各章や、事前に配布されたテキストを読んでくること。 テキストの内容について学生間で説明し合ったり、感想や疑問を共有したりします。								
教材教科書参考書	・教科書 佐久間亜紀・佐伯胖編著『現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年。（ISBN：978-4623085361）								
留意点	特になし								

科目名	教育原理【2018年度以降入学生】 教育と人間A【2017年度以前入学生】	科目コード	W61024/W61002 T-TLFU2-00. NKS	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
区分	資格関係科目	担当者名	松橋 俊輔			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本科目では、西洋を中心に過去の教育思想に触れ、それと向き合って自ら教育観・人間観・社会観を深めるとともに、日本の教育史についてごく基本的な知識を身に付け、自らの置かれた状況を相対化し批判的・創造的に思考する力を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>								
到達 目標	<p>1) 過去の著名な思想家の教育思想について基礎的な理解を得る。 2) 過去の思想等を手がかりにしながら、教育の本質、理想、問題等について、自分なりに考えることができる。 3) 日本近代教育の歴史について基礎的な知識を身に付ける。</p>								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス	本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明							
第2回	「教育」とは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育」とは何か</li> <li>・制度化された教育</li> <li>・「教育」を支えるもの</li> </ul>							
第3回	教育思想の源流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古代ギリシャの社会と教育</li> <li>・ソクラテスの思想</li> <li>・プラトンの思想</li> </ul>						ディスカッション	
第4回	中世から近世の教育と思想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルネッサンスと教育</li> <li>・宗教改革とルターの思想</li> <li>・コメニウスの思想</li> </ul>						ディスカッション	
第5回	西洋近代の教育思想(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋近代と啓蒙主義</li> <li>・ルソーの思想</li> </ul>						ディスカッション	
第6回	西洋近代の教育思想(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カントの哲学と教育論</li> </ul>						ディスカッション	
第7回	西洋近代の教育思想(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベスタロッチの実践と思想</li> <li>・フレーベルの思想</li> </ul>						ディスカッション	
第8回	近代学校の誕生と展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代教育制度の確立</li> <li>・フランス・イギリスの場合</li> </ul>							
第9回	20世紀の教育思想(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デューイの思想</li> <li>・新教育の様々な実践と思想</li> </ul>						ディスカッション	
第10回	20世紀の教育思想(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボルノーの教育思想</li> </ul>						ディスカッション	
第11回	20世紀の教育思想(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ポストモダン」とは何か</li> <li>・イリイチの教育論</li> </ul>						ディスカッション	
第12回	20世紀の教育思想(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノディングズのケア論</li> </ul>						ディスカッション	
第13回	日本教育史概略(1) 近世から戦前まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代の教育</li> <li>・近代教育制度の発足</li> <li>・「国民」の教育</li> <li>・新教育の試み</li> <li>・戦時下の教育</li> </ul>							
第14回	日本教育史概略(2) 戦後以降	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後教育改革</li> <li>・学校化社会の成立</li> <li>・1990年代以降の学校</li> </ul>							
第15回	教育実践に生きた思想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金森俊郎の実践と思想</li> </ul>						ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み（ミニツペーパーを含む） 50%</li> <li>・レポート 50%</li> </ul>								
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート：授業で扱った思想家から一人を選び、その思想から考えたことについて論じる。</li> </ul>								
事前事 後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に、テキストの指定された箇所や事前に配布された資料を読み、感想や疑問を書き留めてくる。</li> <li>・授業中に共有し、ディスカッションを行います。</li> <li>・授業後には、講義内容を振り返り、提示された問いに対する自分なりの考えをまとめておくこと。</li> </ul>								
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 藤井千春『時代背景から読み解く西洋教育思想』ミネルヴァ書房、2016年。(ISBN: 978-4623077120)</li> </ul>								
留意点	特になし								

科目名	教育史【2018年度以降入学生】 教育と人間B【2017年度以前入学生】	科目コード	W61023/W61003 T-TLFU2-01.NK	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
区分	資格関係科目	担当者名	松橋 俊輔			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 日本における教育の歴史についての講義を行う。また、単に講義を聴くのみでなく、歴史的出来事の意味について自分なりに考えを深める。なお、理解を深めることができるよう、度々、映画等の映像資料を用いる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>								
到達目標	<p>1) 日本の教育史に関する基礎的知識を身につける 2) 教育に関する問題について、歴史的見解や多様な立場からの意見を踏まえうえで自身の意見を持つことができ、それを専門用語を用いつつ理論的に述べるができる。</p>								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス	・ 本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明						初回欠席者は履修を認めないので注意すること	
第2回	前近代(1) 組織としての教育の発展	・ 日本における「組織としての教育」の拡大 ・ 江戸の「教育爆発」							
第3回	前近代(2) 江戸時代の「学び」	・ 手習い塾での子どもの学び ・ 藩校・学問塾での大人の学び							
第4回	戦前(1) 近代教育の発足	・ 維新勅語の教育政策 ・ 「学制」による出発 ・ 「自由教育令」の理想主義							
第5回	戦前(2) 教育勅語への道	・ 復古主義の台頭と「改正教育令」 ・ 教育勅語成立の過程							
第6回	戦前(3) 近代教育制度の確立	・ 初代文部大臣森有礼の教育政策 ・ 明治後期の教育政策 ・ 大正期の教育政策							
第7回	戦前(4) 明治の教授学から大正新教育へ	・ 明治期の教育方法論 ・ 大正新教育の実践							
第8回	戦前(5) 震災、恐慌から戦争へ	・ 震災と恐慌 ・ 昭和戦前の教育政策 ・ 戦中の教育政策							
第9回	戦後(1) 占領と教育改革	・ 終戦直後の軍国主義解体 ・ 新学制の発足							
第10回	戦後(2) 戦後新教育と保革対立	・ 戦後新教育 ・ 保革対立と「逆コース」							
第11回	戦後(3) 政治の季節と高度成長	・ 政治運動と教育 ・ 経済発展と教育							
第12回	戦後(4) 矛盾の噴出	・ 1970年代の教育政策 ・ 学校における諸問題の噴出と教師たちの対応							
第13回	戦後(5) ポスト近代社会への教育	・ 臨時教育審議会の教育政策 ・ 「ゆとり」と「生きる力」の理念 ・ 市場原理の導入							
第14回	戦後(6) 国家と教育のゆくえ	・ 徳育の強調・強化と教育基本法改正 ・ 学びの改革の現在							
第15回	教育はどこへ向かうか まとめ	・ コロナショック以降の公教育 ・ 授業全体の総括							
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・ 出席および参加度：40% ・ 期末試験：60% ・ ミニツペーパー：適宜加算</p>								
課題等	・ ミニツペーパーに対しては、次回授業冒頭においてフィードバックを行う。								
事前事後学修	・ 授業前にシラバスに記載された教科書の各章を読んでおくこと。								
教材教科書参考書	・ 教科書：山本正身『日本教育史』慶應義塾大学出版会、2014年。(ISBN: 978-4766421316)								
留意点	特になし								

科目名	教育心理学	科目コード	W61004	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期	
区分	資格関係科目	担当者名	佐々木 正晴			授業 形態	講義	単独		
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕          学習を積み重ねて初めて人は人になる。学習の成立に“教育”の活動はいかに関与するのか。本稿では、主に心理活動に障害を抱える事例に対する機能形成実験から学習成立の原理を探る          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>									
到達 目標	1. 基本概念と語句を理解すること 2. 教育と心の活動の関係性について、答えを見つけること									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	人間関係の始まり	狼に育てられたと推定される2人の少女								
第2回	環境と機能形成	乳幼児期における実験例と環境・社会の役割理論								
第3回	心の活動の生得性と習得性	心の活動の生得性一習得性を巡り行われてきた議論を紹介								
第4回	言語活動の機能	言語活動の種類と機能について心理学的観点から見る								
第5回	言語活動の障害と形成1	言語活動の障害と形成1：自閉症と判定された子供の場合						ディスカッション		
第6回	言語活動の障害と形成2	言語活動の障害と形成2：発達の遅れがあると判定された子供の場合						ディスカッション		
第7回	言語活動の総括	言語活動の機能を列挙し、教育的有効性と日常生活を考える								
第8回	言語活動の全体	日常場面の言語を通して言語機能を全体的に考える。外国語習得含む								
第9回	視覚活動の障害と形成	視覚活動の障害と形成：乳幼児、視覚障害児の機能形成実験例								
第10回	学習意欲の喪失	乳幼児、大学生、企業人の学習意欲の喪失の実例を通して考える						ディスカッション		
第11回	描画行動の障害と形成	描画行動の障害と形成過程について幼児と言語機能障害児の実験						ディスカッション		
第12回	新生児、幼児の発達	新生児、幼児の発達過程について代表的な実験例から考える						ディスカッション		
第13回	性格・発達検査	性格・発達検査を通して子供を理解する方法と意味について考える								
第14回	教育活動の概念と方法	Umezuの相互輔生工作を基に教育活動の概念を整理する								
第15回	総括	学校、教育、障害、発達について全体的に考える								
評価 方法 及び 評価 基準	講義で毎回小レポートを課する(15回×3点=45点)。翌週提出する大きなレポート3回(3回×10点=30点)。最終16回目試験(25点)。レポート、試験はテーマに応じて論理的に構成されているか、評価する。									
課題等	小レポートは講義中に解説する。									
事前事後学修	毎回の授業最後にレポートを課し、次回授業冒頭で解説する。レポート作成の所要時間の目安は3時間である。									
教材 教科書 参考書	なし。プリント配布。									
留意点	心を込めてレポートを書くこと。 連絡先：sasaki@hirogaku-u.ac.jp オフィスアワー：(木)14：20～15：50									

科目名	教育関係法規【2018年度以前入学生】 /教育制度論【2019年度以降入学生】		科目コード	W61005/W61026	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
			科目ナンバリング	T-TLFU2-03. NK	時間	30時間	学年		学期	
区分	教職科目	必修	担当者名	大野 拓哉				授業	講義	単独
								形態		
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>「教育」と「法」という、一見馴染みにくそうな関係にあって、「法」はどのように「教育」に関わり、どのように「教育」という営為を捉え、支えているかを考える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達目標	日本国憲法をはじめ、重要な教育法規に関して、その概要をつかみ、その要点を理解することを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	教育に関する法の概観			教育関係の法の体系を学ぶ						
第2回	日本国憲法①			日本国憲法26条「教育を受ける権利」「教育を受けさせる義務」						
第3回	日本国憲法②			日本国憲法23条「学問の自由」ほか						
第4回	子どもの権利条約			子どもの権利条約2条1項、3条1項、7条1項、13条ほか						
第5回	教育機関に関する規定①			学校の設置						
第6回	教育機関に関する規定②			学校の目的と編成						
第7回	教育機関に関する規定③			学校評議員制度と学校運営協議会						
第8回	教育課程に関する規定①			教育課程と学習指導要領、教科書						
第9回	教育課程に関する規定②			出欠席の管理、学年、学期						
第10回	児童・生徒等の就学に関する規定①			就学の権利と義務						
第11回	児童・生徒等の就学に関する規定②			生徒指導						
第12回	児童・生徒等の就学に関する規定③			学校における保健と安全						
第13回	教育職員に関する規定			免許、服務、分限、懲戒等						
第14回	教育行政・財政に関する規定			教育行政の組織、教育財政の仕組み						
第15回	総括			まとめと振り返り						
評価方法及び評価基準	試験のみを評価の対象とする									
課題等	特になし									
事前事後学修	特に事後学修に関して、ノートの整理や支持された文献の参照などを行うこと									
教材教科書参考書	高見茂・開沼太郎・宮村裕子編『教育法規スタートアップVer.3.0』昭和堂									
留意点	法規の条文をその場で参照できるよう、教育六法等を常に教室に持参すること									

科目名	社会科・地歴科教育法 A		科目コード	W61015	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	T-TLS03-00.NO		30時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	福士 壽一			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 1. 中学校社会科の学習指導要領改訂の経緯・趣旨・要点 2. 中学校社会科の目標・内容 3. 学習指導案の作成 4. 地域教材の開発 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している									
到達 目標	社会科・地歴科教育法を学ぶことによって、学習指導要領の目標・内容がよく理解でき、また、我が国及び世界の国々の国情や歴史に対する関心や理解度を深め、教科の指導がよく出来るようになる。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	中学校学習指導要領の改訂の経緯			我が国の児童生徒の課題を是正するため、7つの改善の答申がなされたことを学修する				講義		
第2回	中学校社会科改訂の趣旨			「知識基盤社会」の現代世界や日本に関する基礎的教養を培い、思考力を高める言語活動を重視する学修を行う				講義		
第3回	改訂の要点…地理的分野、歴史的分野			3つの要点（基本的知識・言語活動の充実・社会参画の意義）を理解し、地理・歴史分野の具体例の学修を行う				講義		
第4回	社会科の目標 地理的分野の目標			社会科の目標の3つのねらい、地理的分野の4つのねらいを学修する				講義		
第5回	歴史的分野の目標			歴史的分野の4つのねらいを学修する				講義		
第6回	地理的分野の内容			中学校学習指導要領解説社会科編のp.139の内容、p.141の内容を取扱い学修を行う				講義		
第7回	歴史的分野の内容			中学校学習指導要領解説社会科編のp.142の内容、p.144の内容を取扱い学修を行う				講義		
第8回	学習指導案作成のモデルによる学習①			〔ヨーロッパと外の世界〕、16世紀ごろ、アジアやアメリカ大陸にどのように進出したかを学修する				講義及び実習		
第9回	学習指導案作成のモデルによる学習② (帝国主義時代とアジア)			上の指導案を参考にし、学習の展開・学習活動（導入・展開・まとめ）や、板書の方法を学修する				実習		
第10回	歴史的分野の学習指導案①			「大化の改新」、7世紀の中ごろ、日本でも唐の律令を学び、中大兄皇子を中心に公地・公民の国家がつけられた（大化改新）。その後天武天皇や持統天皇によって律令制度が充実する				講義及び実習		
第11回	歴史的分野の学習指導案② (大化の改新)							実習		
第12回	地理的分野の学習指導案①			「急速に変わる東南アジア」、21世紀に入って急激に変貌する東南アジアの国々の輸出品の変化、農村のくらし、都市化について、図や写真などを適切に使用した指導案の作成を行う				講義及び実習		
第13回	地理的分野の学習指導案② (東南アジア)							実習		
第14回	新聞資料(嶽キミ)による学習指導案			「開拓民と歩んだ嶽キミ」の新聞記事を資料とし、「嶽キミ」の全国ブランド化の歩みを教材化する				実習		
第15回	まとめとテスト			既習内容の確認						
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験(70%)、授業内容ワークシートの提出(5回に1回小テスト)(10%)で授業内容の定着度を把握し、小論文、レポート(20%)で自分の考えを論理的に記述しているかなど、総合的(合計100点、100%)に評価する。									
課題等	本・新聞記事から題材を見つけ、小論文、レポートの課題を出す。提出後コメントを記入した上で返却する。									
事前事 後学修	授業内容については、要点を整理したワークシートを渡す。ワークシートに記入し、次の授業時に提出させる。定期試験の際にも学修させる。									
教材 教科書 参考書	『中学校学習指導要領解説 社会科編』(東洋館出版社) ISBN:978-4-491-03471-3 『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(東洋館出版社) ISBN:978-4-491-03641-3 『教員採用試験 2022年度版【中高社会マスター】』(実務教育出版) ISBN:978-4-7889-5944-6									
留意点	「社会科・地歴科教育法」の授業内容については、精選されたワークシートを利用し、基本的な知識を定着させ、また『教員採用試験【中高社会マスター】』を活用し、社会科、地理歴史科目のP4ページの小テストを毎時10分間実施し、実力を養成する。									

科目名	社会科・地歴科教育法B		科目コード	W61016	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	T-TLS03-01.NO		30時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	福士 壽一			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主目〕 1. 高等学校地歴科の学習指導要領改訂の経緯・趣旨・要点 2. 高等学校地歴科の目標・内容 3. 学習指導案の作成 4. 模擬授業による実践力の向上 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している									
到達 目標	社会科・地歴科教育法を学ぶことによって、学習指導要領の目標・内容がよく理解でき、また、我が国及び世界の国々の国情や歴史に対する強い関心や理解を深め、教科の指導がよくなるようになる。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容				備 考			
第1回	地歴科学習指導要領改訂の趣旨		地歴科改訂の趣旨の3つの基本方針、また、地歴探究、日本史探究、世界史探究の改善の具体的事項の学修				講義			
第2回	地歴科学習指導要領改訂の要点		地歴科改訂の要点 地理探究、日本史探究、世界史探究を学修				講義			
第3回	地歴科の目標・世界史探究の性格と目標		地歴科の目標と、世界史探究の科目の性格と目標を学修				講義			
第4回	日本史探究の性格と目標		日本史探究の科目の性格と目標を学修				講義			
第5回	地理探究の性格と目標		地理探究の科目の性格と目標を学修				講義			
第6回	世界史探究の内容		高等学校学習指導要領解説地理歴史編のp.396の内容、p.399の内容の取扱いで学修				講義			
第7回	日本史探究の内容		高等学校学習指導要領解説地理歴史編のp.410の内容、p.415の内容の取扱いで学修				講義			
第8回	地理探究の内容		高等学校学習指導要領解説地理歴史編のp.418の内容、p.425の内容の取扱いで学修				講義			
第9回	世界史探究の内容の学修指導案①		「中華帝国と東アジア」6世紀末～17世紀初頭の隋唐の全国統一は律令制度を整えた。また、華北と江南を結ぶ大運河を完成させ、経済的にも文化的にも発展した。唐を中心に東アジア文化圏が形成された。				講義及び実習			
第10回	世界史探究の内容の学修指導案②						実習			
第11回	地理探究の内容の学修指導案①		「地球温暖化」現在も地球上では、二酸化炭素などにより温暖化が進行している。氷河の融解や海面上昇の原因であると考えられている。また、猛暑日やゲリラ豪雨も温暖化が一因であると考えられている。図や写真を使用し解説していく。				講義及び実習			
第12回	地理探究の内容の学修指導案②						実習			
第13回	学習指導案による模擬授業		自分の作成した学修指導案で模擬授業を行う。				実習			
第14回							実習			
第15回	まとめとテスト		既習内容の確認							
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験(70%)、授業内容ワークシートの提出(5回に1回小テスト)(10%)で授業内容の定着度を把握し、小論文、レポート(20%)で自分の考えを論理的に記述しているかなど、総合的(合計100点、100%)に評価する。									
課題等	本・新聞記事から題材を見つけ、小論文、レポートの課題を出す。提出後コメントを記入した上で返却する。									
事前 事後 学修	授業内容については、要点を整理したワークシートを渡す。ワークシートに記入し、次の授業時に提出させる。定期試験の際にも学修させる。									
教材 教科書 参考書	『中学校学習指導要領解説 社会科編』(東洋館出版社) ISBN:978-4-491-03471-3 『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(東洋館出版社) ISBN:978-4-491-03641-3 『教員採用試験 2022年度版【中高社会マスター】』(実務教育出版) ISBN:978-4-7889-5944-6									
留意点	「社会科・地歴科教育法」の授業内容については、精選されたワークシートを利用し、基本的な知識を定着させ、また『教員採用試験【中高社会マスター】』を活用し、社会科、地理歴史科目のP4ページの小テストを毎時10分間実施し、実力を養成する。									

科目名	社会科・公民科教育法 A		科目コード	W61017	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	T-TLS03-02. NO		30時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	篠塚 明彦			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会科・公民科の教育課程に占める位置・役割を確認した後、その歴史的展開を具体的な実践記録等を取り上げながら検討します。その後、社会科授業を巡る今日的課題を検討するとともに、現行および次期の学習指導要領に示された目標・内容構成を確認します。その上で、学習指導案の作成に取り組んでいきます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの1に関連します。</p>									
到達目標	<p>中学校社会科および高等学校公民科の歴史的展開と理念、内容構成について理解を深める。その上で望ましい授業のあり方について自らの考えを深め、指導計画を立案することができる。</p>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	オリエンテーション		授業全体の流れを概観しつつ、到達目標を確認する。						講義	
第2回	教育課程上の社会科・公民科の位置		小・中・高全体の教育課程における社会科および公民科の位置づけについて考察する。						講義・演習	
第3回	社会科の歴史（1）		社会科の成立とその背景について考察し、その意義について理解を深める。						講義・演習	
第4回	社会科の歴史（2）		初期社会科における経験主義的立場から系統主義立場への転換とその背景について考察する。						講義・演習	
第5回	社会科の歴史（3）		高校社会科が解体され、公民科が成立した背景とそれに伴う実践上の影響について考察する。						講義・演習	
第6回	社会科・公民科の今日的課題（1）		社会科・公民科が直面する課題について、生徒の状況を踏まえた授業の在り方という観点から考察する。						講義・演習	
第7回	社会科・公民科の今日的課題（2）		急速な社会の変化の前にしたときの社会科・公民科授業の在り方を考察する。						講義・演習	
第8回	社会科・公民科の今日的課題（3）		21世紀型学力が求められる中であって、社会科・公民科授業のあるべき方向性を検討する。						講義・演習	
第9回	中学校社会科の目標と内容構成		実践事例も参考にしながら、中学校社会科における目標と内容の構成原理について理解を深める。						講義・演習	
第10回	高校公民科の目標と内容構成（1）		新科目「公共」について、その可能性と課題を視野に入れながら、目標と内容の構成原理について理解する。						講義・演習	
第11回	高校公民科の目標と内容構成（2）		倫理及び政治経済について、実践事例も参考にしながらその目標と内容の構成原理について理解する。						講義・演習	
第12回	学習指導案の様式と書き方		具体的な学習指導案をもとに単元指導案と本時指導案の書き方について学ぶ。						講義・演習	
第13回	単元指導計画の立案		単元指導計画を立案し、単元指導案の作成を試みる。						講義・演習	
第14回	教材研究の進め方		単元指導・本時指導に向けての教材研究の深め方について理解し、教材研究を試みる。						講義・演習	
第15回	まとめと試験		講義全体を振り返る、その上で試験を行う。						講義・演習	
評価方法及び評価基準	<p>①平常点（15%）、②期末試験（50%）、③学習指導案（35%）によって総合的に評価します。②は社会科・公民科教育についての基本的な事項について理解、および望ましい授業のあり方について自らの考えが構築できているかを基準に評価します。③は学習指導案の体裁が整えられているのかを中心に評価します。</p>									
課題等	<p>毎時間リフレクションシートを記入。次回の授業は記述内容を踏まえて進める。</p>									
事前事後学修	<p>社会科・公民科の授業では時事的な問題が取り上げられることがあります。日頃から意識して新聞で時事問題に触れるようにして下さい。また、授業内で関心を持った新聞記事についてのコメントをしてもらいます。</p>									
教材教科書参考書	<p>中学校学習指導要領解説社会編、高等学校学習指導要領解説公民科編</p>									
留意点	<p>授業は受講者と対話的に進めていきます。積極的な発言を心掛けるようにして下さい。また、疑問点については積極的に質問して下さい。</p>									



科目名	社会科・公民科教育法B		科目コード	W61018	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	T-TLS03-03. NO		30時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	篠塚 明彦			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 社会科・公民科の授業記録の分析を通じて、授業の構成要素と指導のポイントについて理解を深めていきます。その後、「導入」、「説明」、「思考場面」、「資料操作場面」を各自で構想・展開する演習を行います。その中で、それぞれの特性と課題を把握した上で、最終的に模擬授業を実施していきます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの1に関連します。</p>									
到達目標	社会科・公民科授業の構成要素への理解を深めつつ、授業を実際に構想・展開・評価する力を身につける。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	オリエンテーション		授業全体の流れを概観しつつ、到達目標を確認する。					講義		
第2回	社会科・公民科の授業分析		実践記録をもとに中学校社会科および高校公民科の授業分析を試みる。					講義・演習		
第3回	社会科授業の構成要素		前時の授業分析を踏まえて、社会科・公民科の授業における構成要素について考察する。					講義・演習		
第4回	授業の「導入」をつくる		授業構成要素のうち、導入について検討し、実際に導入場面の作成を試みる。					講義・演習		
第5回	授業の「導入」を試みる		前時に作成した導入を模擬授業の形式で実際に行ってみる。					演習		
第6回	授業における「説明」を構想する		授業の構成要素のうち、説明について検討し、実際に説明場面の作成を試みる。					講義・演習		
第7回	授業における「説明」を試みる		前時に作成した説明場面を模擬授業の形式で実際に行ってみる。					演習		
第8回	「思考・資料操作場面」を構想する		授業構成要素のうち、思考・資料操作場面について検討し、実際に思考・資料操作場面の作成を試みる。					講義・演習		
第9回	「思考・資料操作場面」を試みる		前時に作成した思考・資料操作場面を模擬授業の形式で実際に行ってみる。					演習		
第10回	演習を通じた自己課題の検討		前時までのそれぞれの場面についての模擬授業を振り返り、自己課題を抽出し改善を試みる。					講義・演習		
第11回	模擬授業と相互批評（1）中学地理		受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。					演習		
第12回	模擬授業と相互批評（2）中学歴史		受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。					演習		
第13回	模擬授業と相互批評（3）中学公民		受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。					演習		
第14回	模擬授業と相互批評（4）高校公民		受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。					演習		
第15回	まとめ		講義全体を振り返り、社会科・公民科授業の在り方について考察を深める。					講義・演習		
評価方法及び評価基準	①平常点（20%）、②演習（50%）、③学習指導案（30%）によって総合的に評価します。 ②は「導入」、「説明」、「思考場面」、「資料操作場面」についての演習および模擬授業を通じて指導内容と指導技術の観点から評価します。③は演習や模擬授業を通じて発見した課題を修正し、より効果的な指導の行える指導案を作成することができるのかを中心に評価します。									
課題等	「導入」、「説明」、「思考場面」、「資料操作場面」についての演習、及び模擬授業についてはリフレクションシートを記入してもらいます。記述内容については次回の授業でコメントし受講者全体で共有します。									
事前事後学修	「導入」、「説明」、「思考場面」、「資料操作場面」についての演習、及び模擬授業についての準備は授業時間内では足りないため、各自で十分に準備し授業に臨むようにしてください。									
教材教科書参考書	中学校学習指導要領解説社会編、高等学校学習指導要領解説公民科編									
留意点	演習が多くなりますので、より一層積極的な姿勢で授業に臨むようにお願いします。									

科目名	特別な教育的ニーズの理解とその支援	科目コード	W61025	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
		科目ナンバリング	T-TLFU2-05. NK	時間	30時間				
区分	資格関係科目	必修	担当者名	佐々木 正晴			授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          本科目における主題は「行動の障害」であるが、心理学における「行動」概念は、人間の活動全てを含む。従って本科目で用いる「行動の障害」という概念は、発達障害、知的障害、非日本語母語話者など、病気や障害の有無を問わず、日常の「行動」に何らかの「障害」が生じる人すべてを含みこむ。          発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする人が活動に参加している実感・達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、こうした人の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>								
到達目標	1. 特別の支援を必要とする人の障害の特性及び心身の発達を理解する。 2. 特別の支援を必要とする人に対する教育課程や支援の方法を理解する。 3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある人の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	心・行動の形成とその障害状況	心理学における代表的な発達・学習理論とそれらの理論が適用できない事例							
第2回	特別支援教育とインクルーシブ教育 - その制度の理念と仕組み	日本と欧米における特別支援教育の制度・理念の対比。日本においては東京都と青森県の場合を対比							
第3回	特別な支援を求めるともたち - 発達障害と知的障害	発達障害と知的障害の発達特性と学習過程						ディスカッション	
第4回	発達障害と知的障害の状況を打開する事例研究	障害状況を打開する方法 - 発達障害と知的障害の状況に対する事例研究						ディスカッション	
第5回	特別な支援を求めるともたち - 視覚障害・聴覚障害	視覚障害と聴覚障害の発達特性と学習過程						ディスカッション	
第6回	視覚障害と聴覚障害の状況を打開する事例研究	障害状況を打開する方法 - 視覚障害と聴覚障害の状況に対する事例研究						ディスカッション	
第7回	特別な支援を求めるともたち - 知的障害・肢体不自由・病弱	知的障害・肢体不自由・病弱の状況における発達特性と学習過程						ディスカッション	
第8回	多様な障害状況、その支援体制 (1)	発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法							
第9回	教育課程の定義と幼児、児童・生徒の発達	「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容						ディスカッション	
第10回	障害状況を打開する基本理念と理論	個別の指導計画・個別的教育支援計画を作成する意義と方法に関して、第4、6、8回授業での事例研究を総括し、その基本理念と理論を探る						ディスカッション	
第11回	学校機関と地域・家庭・機関との連携	特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築する具体例 (青森県の場合)						ディスカッション	
第12回	多様な障害状況、その支援体制 (2)	母国語や貧困：学習上又は生活上の困難や組織的な対応についての具体例 (青森県の場合)							
第13回	脳損傷者の障害状況とその支援方策	脳が壊れても機能は形成される RewinとSadatoの実験報告							
第14回	自閉症の障害状況とその支援方策	言語活動を形成することを介して多様な障害状況が克服される							
第15回	総括	行動の障害状況に応じた機能形成の原理を探る							
評価方法及び評価基準	平常点評価50%、レポート50%。毎回の授業で小レポートを課する。小レポートの内容や授業中の受講態度等を総合して平常点とする。 翌週提出する大きなレポートは、3回。テーマに応じて論理的に構成されているかを評価する。								
課題等	毎回行う小レポートは講義時に解説。大レポートは提出後に解説。								
事前事後学修	次回までに考えてくる課題を出し、次回冒頭解説する。								
教材教科書参考書	なし。プリント配布。								
留意点	心を込めてレポートを書くこと。								

科目名	道徳教育の研究【2018年度以降入学生】 /道徳教育の理論と実践 【2019年度以降入学生】	科目コード	W61008/W61027	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期		後期	
区分	資格関係科目 教職資格科目(中免必修) 選択必修	担当者名	松橋 俊輔				授業 形態	講義	単独		
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>道徳教育および道徳授業について基礎的な知識を得るとともに、それを主体的・対話的に検討すること、および、それらを基にして模擬授業を経験することを通して、各自の道徳教育観を育む。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>										
到達目標	<p>1) 現在の日本における道徳教育の枠組みについての基礎的な知識を得る。</p> <p>2) 様々な道徳授業方法論に触れ、自らの基礎的な道徳授業観を形成する。</p> <p>3) 実際に「道徳」の学習指導案を作成し、これに基づいて授業ができるようになる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修								備 考	
第1回	ガイダンス 道徳教育の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明</li> <li>・ 模擬授業の日程決め</li> <li>・ 道徳教育の歴史概観と教科化の経緯</li> </ul>									
第2回	道徳教育の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳とは何かを問い直す</li> <li>・ 道徳教育と道徳の授業の目標について検討</li> </ul>								ディスカッション	
第3回	道徳教育の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育の内容について議論</li> <li>・ 道徳性の発達</li> </ul>								グループワーク	
第4回	「道徳」授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な方法論</li> <li>・ 授業例の検討</li> </ul>								ディスカッション	
第5回	「道徳」授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導要領の記述</li> <li>・ 心情読解型の道徳授業の検討</li> </ul>								ディスカッション	
第6回	「道徳」授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題解決型の授業の検討</li> <li>・ モラルジレンマによる道徳授業の紹介</li> </ul>								ディスカッション	
第7回	「道徳」授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソーシャル・スキル・トレーニングによる道徳授業の検討</li> <li>・ 構成的グループエンカウンターによる道徳授業の紹介</li> </ul>								ディスカッション	
第8回	道徳教育の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他教科や他領域における道徳教育の在り方</li> <li>・ 指導案の書き方</li> </ul>								ディスカッション	
第9回	模擬授業の構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JPOPを使った授業の紹介</li> <li>・ 哲学対話による道徳授業の紹介</li> <li>・ 模擬授業計画</li> </ul>								グループワーク	
第10回	模擬授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 履修者による30分間の模擬授業</li> <li>・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント</li> </ul>								ディスカッション	
第11回	模擬授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 履修者による30分間の模擬授業</li> <li>・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント</li> </ul>								ディスカッション	
第12回	模擬授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 履修者による30分間の模擬授業</li> <li>・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント</li> </ul>								ディスカッション	
第13回	模擬授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 履修者による30分間の模擬授業</li> <li>・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント</li> </ul>								ディスカッション	
第14回	模擬授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 履修者による30分間の模擬授業</li> <li>・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント</li> </ul>								ディスカッション	
第15回	模擬授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 履修者による30分間の模擬授業</li> <li>・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント</li> </ul>								ディスカッション	
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆記試験：50%</li> <li>・ 模擬授業：50%（模擬授業の実施：25%＋模擬授業の振り返りと指導案の改善：25%）</li> <li>・ ミニツペーパー：適宜加点</li> </ul>										
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬授業の振り返りと改善された指導案：次回授業時までに提出。フィードバックがなされる。</li> <li>・ ミニツペーパー：次回授業冒頭においてフィードバックを行う。</li> </ul>										
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬授業の実施にあたっては、授業計画のみならず、教材分析において十分な準備が必要とされる。</li> <li>・ 模擬授業の実施後は、振り返りと指導案の訂正に十分な時間をかけて取り組むことが必要とされる。</li> </ul>										
教材教科書参考書	<p>教科書・林泰成『道徳教育の方法—理論と実践—』左右社、2018年。（ISBN：978-4865281927）</p> <p>・ 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則篇』2018年。（ISBN：978-4827815801）</p> <p>・ 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編』2018年。（ISBN：978-4316300849）</p>										
留意点	特になし										

科目名	特別活動の研究(教育課程の意義及び編成の方法を含む)【2018年度以降入学生】/特別活動及び総合的な学習の時間指導法【2019年度以降入学生】		科目コード	W61009/W61028	単位数 2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		T-TLSP2-01. NK						
区分	教職科目	必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>学校の学級活動、生徒会活動、学校行事などが特別活動です。これらの活動が集団の中で、個人の「自律」と協働という2つの能力を向上させていくように、教員・学校は配慮していきます。特別活動が集団と個人を比較すると、どちらかと言えば、集団に重心が置かれる。他方で、総合的な学習は、どちらかと言えば、個人の能力をより伸ばそうとするものです。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>文学部のコミュニケーション能力、社会福祉学部の社会福祉実践者としての「人づくり」に見られるように、教員は生徒との関わりには積極である必要があります。これらについても、講義の中で絡めていきます。</p>								
到達目標	<p>個人と個人、個人と集団、集団と集団、小さな集団と大きな集団など様々な協働作業の中で、調整と対立が生じます。その中で、個人や集団はどのように考え行動すべきか。生徒個人・生徒集団・教員・教員集団の立場で考えていきます。このように、特別活動では、個人は常に集団との関わりを意識せざるを得ない。個人の能力は重要だが、個人が集団との関わりの中で経験的に学んでいくことが重視される。他方で、総合的な学習の主たる理念は、各教科の専門領域を超えて2教科以上の専門領域を横断的に学習する。個人が各教科の専門領域を超える発想で学習・探求していくことが求められます。</p>								
<b>授 業 計 画</b>									
回	主 題	授 業 内 容					備 考		
第1回	本講義・展開方法・発表・レポートについて	発表は義務だが、評価はしない。発表内容からレポートの作成までの説明を学生にします。							
第2回	特別活動と教育課程	学習指導要領から特別活動の定義と目標を考察し、学生に理解してもらおう。							
第3回	特別活動の基本的性格	特別活動の基本的性格と教育的意義についての考察し、学生に理解してもらおう。							
第4回	特別活動と各教科、道徳、総合的な学習時間との関連	特別活動と各教科、道徳、総合的な学習時間との関連で、最も重要な点は、目に見える活動を通じて、点数化や評価がしにくい部分の能力向上を目指していることを学生に理解してもらおう。							
第5回	学級（ホームルーム）活動、生徒会活動、学校行事とは何か	学級活動、生徒会活動、学校行事のメリット・デメリットを考察し、学生に理解してもらおう。							
第6回	学級活動・生徒会活動・学校行事の関係とその意義	「目に見える」・「目に見えない」視点から、3つの活動とその共通点を考察し、学生に理解してもらおう。							
第7回	総合的な学習とは何か	総合的な学習と各教科学習の違いとその意義を理解してもらおう。							
第8回	総合学習の事例を学ぶ	総合的な学習の事例から横断的な学習のメリットを考察し、理解してもらおう。							
第9回	総合的な学習と特別活動の関係	総合的な学習と特別活動の違いと共通点を考察し、学生に理解してもらおう。							
第10回	学生による発表（1）	学生が、指定された字数で、自らの経験を踏まえて自らの特別活動又は総合的な学習の授業計画を作成して発表。							
第11回	学生による発表（2）	（1）の続き：学生の発表に、これを聴講した学生が疑問・意見をぶつける。							
第12回	学生による発表（3）	疑問の工夫と各学生への助言。							
第13回	学生による発表（4）	意見の工夫と各学生への助言。							
第14回	学生による発表（5）	発表のスピードの工夫と各学生への助言。							
第15回	学生による発表（6）	発表時の態度の工夫と各学生への助言。							
評価方法及び評価基準	3つの特別活動又は総合的な学習から一つを選んでレポート（100%）を提出。								
課題等	講義は、小学校・中学校、高校、そしてこれまでの大学生としての経験等を思い出しながら、聞いてください。								
事前事後学習	講義前日は、教育に関する記事一つ、新聞かネットニュースで読んでください。講義終了日は、レジュメをさらっと読み返し、配布した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。適宜、参考書等を講義において示します。								
教材教科書参考書	適宜、参考書等を講義において示します。								
留意点	第1回目の講義に欠席する学生は事前に西東まで連絡をすること。								

科目名	教育の方法と技術 (社会・公民・地歴) 【2018年度以前入学生】		科目コード	W61010	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		T-TLS03-10.NO							
区分	教職科目	必修	担当者名	大谷 伸治			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	【授業の主旨】 次期学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」とはどのような授業か、どうすれば創れるのか、体験編・理論編・教材研究編の3段階を通して考えを深めたうえで、実際に模擬授業をおこない、「教科の本質」をふまえた実践的な方法と技術を身に付ける。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3及びカリキュラムポリシーの1と関連している。									
	到達 目標	学習指導要領を捉え直し、教科の本質をふまえ、子どもとともに「主体的・対話的で深い学び」を創る方法と技術の基礎を身に付ける。								
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備 考	
第1回	ガイダンス	授業の概要、到達目標、全体の流れを説明する。 模擬授業の担当科目を話し合い、決定する。								
第2回	主体的な学びとは？(1) 体験編	講義担当者が現場でおこなってきた授業実践を模擬的に体験し、「主体的な学び」とは何かを考える。							グループワークを含む	
第3回	主体的な学びとは？(2) 理論編	教科書の該当箇所を読んでくる。理論的な背景を理解したうえで、「主体的な学び」について議論し、考えを深める。							ディスカッション	
第4回	主体的な学びとは？(3) 教材研究編	模擬授業に向けた教材研究をおこない、「主体的な学び」を創るためのしつけや手立てを考える。							グループワーク	
第5回	対話的な学びとは？(1) 体験編	講義担当者が現場でおこなってきた授業実践を模擬的に体験し、「対話的な学び」とは何かを考える。							グループワークを含む	
第6回	対話的な学びとは？(2) 理論編	教科書の該当箇所を読んでくる。理論的な背景を理解したうえで、「対話的な学び」について議論し、考えを深める。							ディスカッション	
第7回	対話的な学びとは？(3) 教材研究編	模擬授業に向けた教材研究をおこない、「対話的な学び」を創るためのしつけや手立てを考える。							グループワーク	
第8回	深い学びとは？(1) 体験編	講義担当者が現場でおこなってきた授業実践を模擬的に体験し、「深い学び」とは何かを考える。							グループワークを含む	
第9回	深い学びとは？(2) 理論編	教科書の該当箇所を読んでくる。理論的な背景を理解したうえで、「深い学び」について議論し、考えを深める。							ディスカッション	
第10回	深い学びとは？(3) 教材研究編	模擬授業に向けた教材研究をおこない、「深い学び」を創るためのしつけや手立てを考える。							グループワーク	
第11回	指導案と教材の完成	模擬授業に向けて作成してきた指導案と教材を完成させる。							グループワーク	
第12回	模擬授業(1) 地理	受講者による模擬授業をおこない、全員で省察検討会をおこなう。							プレゼンテーション ディスカッション	
第13回	模擬授業(2) 歴史	受講者による模擬授業をおこない、全員で省察検討会をおこなう。							プレゼンテーション ディスカッション	
第14回	模擬授業(3) 公民	受講者による模擬授業をおこない、全員で省察検討会をおこなう。							プレゼンテーション ディスカッション	
第15回	まとめ	講義全体を振り返り、教科の本質をふまえ、子どもとともに創る「主体的・対話的で深い学び」の在り方について考察を深める。							ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	試験は実施せず、下記の3点を合算して評価します ①授業への参加度：30点（リアクションペーパーの記述内容や議論への参加度を総合的に評価します） ②指導案&模擬授業：50点（「主体的・対話的で深い学び」を創ることができたか、授業後の省察をもとに修正できたかを評価します） ③期末レポート：20点（講義の内容を理解し、授業観・教育観がどのように変容・深化したかを評価します）									
課題等	毎回リアクションペーパーを書いてもらいます。次回の授業は記述内容をふまえて進めます。 指導案・期末レポートへのフィードバックは、後日メールにておこないます。									
事前 事後 学習	①教材研究は授業時間内だけでは到底足りません。各自で精力的に文献調査やフィールドワークなどをおこない、指導案と教材の作成に励んでください。相談には随時応じます。 ②理論編の講義の前には、教科書を必ず読んできてください。									
教材 教科書 参考書	石井英真『授業づくりの深め方：「よい授業」をデザインするための5つのツボ』（ミネルヴァ書房、2020年） ISBN 978-4-623-08770-9									
留意点	中学社会科と高校地歴・公民免許取得のための講義ですが、「教育の方法と技術」は校種や教科に限定されるものではありません。したがって、小学校や他教科の内容にも触れることがあります。									

科目名	生徒指導論(進路指導を含む)【2018年度以前入学生】/生徒指導論・進路指導論(進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む)【2019年度以降入学生】		科目コード	W61011/W61029		単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング	T-TLSP2-05. NK		30時間							
区分	教職科目	必修	担当者名	西東 克介				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>生徒指導は、服装・頭髪指導に見られるように、学校現場では長く合理的管理だと見なされてきました。その中の進路指導も同様に偏差値・成績で同様の指導が行われてきました。だが、今日のキャリア教育を含む生徒指導は、目に見える基準のみで生徒に接することは、生徒の数値化できない、目に見えにくい能力に焦点をあてない管理型の教員となり、生徒も同様の思考になってしまうかもしれない。人間の社会から管理的側面を完全に排除することはできないが、同時に次世代が自らを育む側面を重視するというキャリア教育を含む生徒指導にしていけば、より良い循環となろう。どのような学校であれ、まずは時間をかけて生徒の自律的側面を重視する環境を形成していくことです。一方で、他律的な指導と、他方で、生徒の自律的な側面を育み、生徒自身が自らの「マニュアル」を心の中に徐々に作成していく。そうした能力をこれからの時代の教員は磨いていく必要があります。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>中学校・高校時代に経験してきた頭髪・服装などの生徒指導は、教員・生徒の上下関係を前提に行われることが多くなっています。こうした面を完全に無くすることはできませんが、すでに、またこれから求められる生徒指導のイメージは生徒とのコミュニケーションです。</p>										
到達目標	<p>生徒指導は、教員が生徒に指導・助言を行うことです。だが、教員ができるかぎり、あらゆる生徒に対応できる能力を磨いていこうと思えば、教員が生徒を通じて、生徒から学ぶことを忘れないことです。もちろん、この実践を続けることは、極めて難しい。だが、これにより、キャリア教育を含む生徒指導に創造性・発展性の可能性が見えてくる。現時点で、学校現場に出ない受講者には、せめてこのことを理解だけでも理解してもらいたい。</p>										
<b>授業計画</b>											
回	主題	授業内容						備考			
第1回	本講義の概要・展開方法・試験等の説明	8年間の高校現場での経験をもとに、政治学・行政学・教育学の視点で概説し、学生に理解させる。									
第2回	生徒個人としての課題とあいさつ (1) 将来と生き方	夢あるいは具体的な目標を持ち、このことを強く信じて生活していくことが、自分を律し、そして能力を高めていくことを概説する。その基本があいさつであることを伝え、理解してもらう。						進路キャリア1-1・2・3			
第3回	(2) 進路と職業(キャリア教育)	前回の目標ができれば、生徒が自分の将来の職業と結びつけられるように、担任が少しずつ関連する情報を生徒に提供していきます。このことの繰り返し極めて重要であることを理解する。バブル経済崩壊後、我が国の進学・職業観が変遷中である。こうした中、キャリア教育により、「新たな」進学・職業観を学ぶ必要があります。その背景について学生に学んでもらいます。						進路・キャリア2-1・2			
第4回	(3) キャリア教育と学習	いわゆる学習は極めて重要だが、部活動や趣味、友人関係においてコツコツと努力する習慣を身につけていくことも重要。なぜなら、その努力する習慣は学習のみならず、あらゆることに応用可能だからです。このことが現段階での職業意識、将来の職業を決めていく過程にも極めて重要であることを伝える(キャリア教育)。						進路・キャリア3-1・2			
第5回	個人と集団の課題としての生活 (1) あいさつと集団	あいさつは、意識せずともできるようになることが必要です。細かな点は別にして、このレベルに達していれば、あらゆることに可能性を導きだせることを学生に伝える。						生徒指導1-1・2			
第6回	(2) いじめのおきる背景	いじめがおきる背景を時代の違いで分析し、学生に理解してもらう。						生徒指導3-1			
第7回	(3) いじめの社会的分析	いじめ問題は当事者同士のみならず、第三者が関係し強められることが多いことを学生に理解させる。						生徒指導3-2			
第8回	(4) 西東の経験したいじめへの対応	高校の教員時代、人権教育の責任者と生徒指導部のメンバーだったことから、あるいじめ問題に対応責任者として関わった。その時の過程と配慮すべきことを学生に伝達し、学生に考えてもらう。						生徒指導3-1・2・3			
第9回	(5) 掃除と生活態度	いじめ問題をはじめとした生徒指導には、まず教員と学級の生徒たちとの関係づくりから行うこと。そのための最も重要な手段が校内の掃除であることを学生に理解してもらう。						生徒指導1-3			
第10回	(6) 性の問題と人権	生徒の性の問題や疑問は、一般に外部情報や友人からの情報に影響を受ける。こうした情報には間違いや偏見のあるものが珍しくない。そうした情報に歪められない基本的な考え方を伝え、学生に理解を深めてもらう。						生徒指導1-4, 2-3			
第11回	教員と教員相互の課題としての指導体制 (1) ホームルームと担任	学校の基盤は学級である。担任と生徒の地道なホームルーム活動によって、学級は形成されていく。その際の担任の基本的考え方や立場について学生に理解してもらう。						生徒指導2-1・2			
第12回	(2) 担任と学年会議	学年は担任・副担任によって学級を形成していく重要な補助組織である。他学級の担任・副担任からの情報により、担当する学級の調整をしていく方法について学生に考えてもらう。						生徒指導2-2・3			
第13回	(3) 人権への配慮と生徒指導部	生徒指導部の活動は学校の秩序形成に寄与する活動である。その際対象となる生徒に人権配慮を常に考えておくことが必要なことを学生に理解してもらう。						生徒指導3-2・3			
第14回	プロフェッショナルとしての教員の資質	プロフェッショナルとしての教員の資質の分析。重要な資質は目に見える資質が目に見えにくい資質によって向上していくことを学生に理解してもらう。						生徒指導1-4, 3-2・3			
第15回	生徒指導の能力を向上させる教員の資質	教員の目に見えにくい資質を育む方法について、学生に理解してもらう。						生徒指導3-2・3			
評価方法及び評価基準	試験(100%) 文章の構成と論理性を中心に評価										
課題等	生徒指導における教員は、感情よりも論理が強い。一部の、あるいは時に多くの生徒は、論理よりも感情が強い。このことを全体の講義を通して考えてほしい。										
事前事後学修	講義前日は、教育に関する記事の一つ以上、新聞かネットニュースで読んでください。講義終了日は、レジュメをさらっと読み返し、配布した新聞記事を全部丁寧に読んでください。										
教材教科書参考書	適宜、参考書等を講義において示します。										
留意点	・教科書はありません。 ・第1回目の講義に欠席する学生は、事前に連絡をすること。										

科目名	学校カウンセリング (教育相談を含む)		科目コード	W61012		単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	T-TLSP2-06. NK		時間	30時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	立花 茂樹				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>生徒の心の悩みを聴いて、よりよい対処方法を生徒や保護者とともに考えていくための助言・援助活動である学校カウンセリング(教育相談)の基本的な考え方や、基本的な相談技法の基礎を学ぶ。 講義だけでなく、話し合い活動や演習を取り入れ、開発的教育相談を体験する授業とする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2及びカリキュラムポリシーの1に関連する</p>										
到達 目標	<p>1 学校教育におけるカウンセリング(教育相談)の意義と機能について説明できる。</p> <p>2 事例を通して、学校生活において生徒たちに起こりうる様々な問題についての理解を深め、対応策について意見交換することができる。</p> <p>3 基本的なカウンセリング(教育相談)の進め方と技法を修得する。</p>										
<b>授業計画</b>											
回	主題		授業内容						備考		
第1回	オリエンテーション 学校における教育相談の意義と課題		講義の概要と到達目標、スケジュール等を説明する 教育相談の特徴、種類の理解を通して教育相談の意義を確認する 「チーム学校」を進める教員に求められる資質能力を理解する						毎回の授業終了時に予習シートを配布する		
第2回	カウンセリングの理論と基礎知識		ロジャーズやフロイトなどの代表的なカウンセリング理論と精神分析、認知行動療法などの心理療法的理論の概要を学ぶ								
第3回	学校におけるカウンセリング		学校におけるカウンセリングの特徴や方法などの概要をとらえる カウンセラーの基本的態度であるカウンセリング・マインドについて理解する								
第4回	カウンセリングの基本技法		生徒の話を引き出す基本的スキル(言語的および非言語的スキル)を学び、ロールプレイによる「面接の基本的スキル」を体験する								
第5回	教育相談におけるアセスメント		アセスメントのための情報収集の基本と、心理教育的アセスメントや生学的アセスメントなどアセスメントの基本を理解する						小テスト1		
第6回	思春期・青年期の発達課題と教育相談		思春期・青年期の特徴と発達課題を理解するとともに、社会環境や生活環境の急激な変化のなかで心的なバランスを崩しやすい生徒への支援を考える								
第7回	学級担任が行う教育相談		学級は人間関係を育む場でもある。生徒にとって居心地の良い学級環境と好ましい人間関係と気づくために学級担任が行う予防・開発的な教育活動を考える								
第8回	予防・開発的教育相談のための グループ・アプローチ		予防・開発的教育相談として学校で多く用いられているグループ・アプローチの種類とそれぞれの特徴について理解する								
第9回			アサーショントレーニング、構成的グループエンカウンターを体験する						小テスト2 グループワーク		
第10回	学校全体で進める教育相談		効果的な教育相談を進めるための校内教育相談体制の確立と教職員間の校内連携のポイントを理解する								
第11回	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割		チーム支援を進めるうえで大きな働きが期待されているスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの職務と役割を理解する								
第12回	保護者との連携と支援		生徒支援における最良の協力・支援者である保護者との連携の進め方を理解する。また、悩みを抱える保護者支援のポイントを学ぶ						小テスト3		
第13回	「いじめ」の問題を考える		「いじめ」の定義といじめの諸相を理解し、いじめの被害者・加害者・周辺の生徒の心理特徴と支援の在り方考える						グループディスカッション		
第14回	「不登校」の問題を考える		「不登校」の原因と心理的特徴を理解し、不登校予防の取り組みと不登校生徒への支援の在り方考える						グループディスカッション		
第15回	関係者・関係機関との連携		生徒や学校とかわりの深い関係者や、外部関係機関との連携・協力関係の構築について学ぶ						小テスト4		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>○小テスト25%、予習シートの作成25%、演習・協議への参加25%、最終レポート25%の割合で評価する。</p> <p>・小テスト：授業開始時に短時間テストを4回実施し、その平均点で評価する。</p> <p>・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後に提出されたものを評価する。</p> <p>・演習・協議への参加：基本的な相談面接の技法や演習及び事例検討等への参加状況(発言・態度など)により評価する。 ※欠席は2点を減ずる。</p> <p>・最終レポート：「学校における教育相談活動」に関するレポート(1000字程度)を課す。 ※小テストを除いて別添の評価基準表により評価する。</p>										
課題等	最終レポートは第14回授業終了時に提出のこと。										
事前事後 学習	<p>予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。</p> <p>復習：授業を振り返り、小テストに備えること。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。</p>										
教材 教科書 参考書	<p>教科書：会沢 信彦(2019)『教育相談の理論と方法』北樹出版 ISBN978-4779305986 そのほか、授業時に資料を配布する。</p> <p>参考書：文部科学省(2010)『生徒指導提要』教育図書 ISBN978-4877302740 ※参考図書は購入を義務付けるものではない。</p>										
留意点	日頃から児童生徒に関する様々な問題に関心を寄せ、自分なりの考えを持って授業に臨んでほしい。										

科目名	教育の方法と技術 (ICT) 【2018年度以前入学生】/教育の方法と技術【2019年度以降入学生】	科目コード	W61022/W61030	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング	T-TLSP2-02. NK	30時間						
区分	資格関係科目	担当者名	佐藤 萬昭			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 情報通信技術の急速な発展等に伴い、学校においてはデジタル教科書、生徒1人に1台のタブレット端末、電子黒板、校内LAN、クラウドシステムなどを導入整備し、その利活用による教育のICT化が進められている。 本科目では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論や授業における指導技術を概説するとともに、情報機器を教育現場における児童生徒への指導にどのように活用するのかについて概説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>								
到達 目標	<p>本科目の到達目標は、次の3つである。 (1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解できる。 (2) 教育の目的に適した指導技術を理解できる。 (3) 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p>								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	オリエンテーション	本科目の概要 (科目の意義・目標、授業の進め方、評価の方法) について知る					講義		
第2回	普遍的な教育方法と教授学のはじまり	伝聞・口承による方法、問答法、事物の教育、自然による教育について学ぶ					講義		
第3回	近代学校における教授法の実践と理論	ペスタロッチからヘルバルトまでの教授法について学ぶ					講義		
第4回	教育の現代化と教授理論	問題解決学習、発見学習、有意味受容学習について学ぶ					講義		
第5回	情報や知識を提示・伝達する方法と技術	講義、教科書の使い方、板書・レジュメ・参考資料、全習法と分習法について学ぶ					講義		
第6回	学習意欲を引き出す工夫と授業技術	発問、調べ学習、話し合い学習について学ぶ					講義		
第7回	学習活動を評価する方法と技術	成績評価の意義と目的、客観的・主観的評価について学ぶ					講義		
第8回	教授組織と学習組織	教授組織や学習組織の諸形態について学ぶ					講義		
第9回	教育メディアの種類と機能	印刷型メディア、標本型メディア、非印刷・非標本型メディアの機能について学ぶ					講義		
第10回	各種のメディアの特性と利用	動画・静止画・音声・情報処理メディアの特性と利用について学ぶ					講義		
第11回	教科指導におけるICT活用 (1)	ICT活用の具体的な方法や場面、電子黒板の活用について学ぶ					講義		
第12回	教科指導におけるICT活用 (2)	教育ICTの先進事例について学ぶ					講義		
第13回	教科指導におけるICT活用 (3)	デジタル教科書、オンライン授業について学ぶ					講義		
第14回	情報モラル教育	情報モラル教育の進め方について学ぶ					講義		
第15回	まとめ	本科目の内容を振り返る					講義		
評価 方法 及び 評価 基準	平常点評価 (40%) 及び試験の結果 (60%) を総合的に勘案して評価する。評価に際しては、主体的に講義に参加しているか、講義で学んだ知識を確実に自らのものとする中で論理的かつ明晰な文章で記述できるか、の2点を重点的に評価する。								
課題等	課題の提出を求められたときには、提出期限を守ること。								
事前事後 学修	適宜授業中に指示するが、復習を中心に学習を進めること。								
教材 教科書 参考書	【教科書】 使用しない。適宜プリントを配布する。 【参考書】 必要に応じて参考文献を提示する。								
留意点	日頃から教育のICT化に関わる様々な問題に関心を寄せ、自分なりの考えを持つように努めてほしい。								



科目名	教育課程とカリキュラム・マネジメント	科目コード	W61021		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			T-TLFU2-06.NK							
区分	資格関係科目	担当者名	松橋 俊輔				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>現在の我が国における教育課程とカリキュラム・マネジメントについて基礎的な知識を得るとともに、自教科における単元のデザインに取り組むことを通して、学校におけるカリキュラム・マネジメントに寄与するための基礎的な力を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>									
到達目標	<p>1) 教育課程・カリキュラムの概念と意義、および日本の教育課程行政に関する基礎知識を得る。</p> <p>2) 学習指導要領の前文および第1章総則の概要を理解する。</p> <p>3) 自身が取得予定の免許において、学習指導要領の考え方に沿って単元単位のカリキュラム・デザインができる。</p> <p>4) 学校におけるカリキュラム・マネジメントに関する基礎知識を得る。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	導入		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本科目のオリエンテーション</li> <li>・ 「教育課程」と「カリキュラム・マネジメント」の概念</li> </ul>						初回欠席者は履修を認めないので注意すること	
第2回	日本の教育課程行政		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程に関する法的枠組み〔教育六法等を持参〕</li> <li>・ 学校における教育課程編成の具体</li> </ul>						ICTを活用	
第3回	学習指導要領の変遷		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦後日本における学習指導要領の変遷</li> </ul>						ディスカッション	
第4回	カリキュラム設計の原理		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経験主義と系統主義の二項対立の捉え方</li> </ul>						ディスカッション	
第5回	学習指導要領における教育の目標と方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「資質・能力」の内容と意義</li> <li>・ 「主体的・対話的で深い学び」の意味</li> </ul>						ディスカッション	
第6回	学習指導要領における教育の内容と評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科の「見方・考え方」を学ぶ重要性</li> <li>・ これからの教育評価のあり方</li> </ul>						ディスカッション	
第7回	学習指導要領のカリキュラム論(1)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カリキュラムマネジメントの意義と方法</li> <li>・ カリキュラム評価</li> </ul>						ディスカッション	
第8回	学習指導要領のカリキュラム論(2)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カリキュラム・マネジメントの観点</li> <li>・ 社会に開かれた教育課程</li> </ul>						ディスカッション	
第9回	教育評価の基礎知識		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価の様々な方法</li> <li>・ 新しい評価方法の試み</li> </ul>						ディスカッション	
第10回	単元のデザイン(1)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導案の標準的な書き方による単元指導計画立案の方法</li> <li>・ 逆向き設計論</li> </ul>						ディスカッション	
第11回	単元のデザイン(2)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会科におけるパフォーマンス評価を用いた単元デザイン</li> <li>・ 外国語科におけるパフォーマンス評価を用いた単元デザイン</li> </ul>						ディスカッション	
第12回	単元のデザイン(3)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語科におけるパフォーマンス評価を用いた単元デザイン</li> <li>・ パフォーマンス評価を用いた単元における指導案の工夫</li> </ul>						ディスカッション	
第13回	中期的なカリキュラムデザイン		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科における中期的なカリキュラム・デザイン</li> <li>・ 教科横断カリキュラムの設計方法</li> </ul>						ディスカッション	
第14回	単元指導計画の発表と相互批評		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 履修者が作成したパフォーマンス評価を用いた単元指導案を発表しあい、相互に批評する</li> </ul>						ディスカッション	
第15回	単元指導計画の発表と相互批評		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 履修者が作成したパフォーマンス評価を用いた単元指導案を発表しあい、相互に批評する</li> </ul>						ディスカッション	
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆記試験：50%</li> <li>・ 単元指導計画の作成と発表：50%</li> <li>・ ミニツッペーパー：適宜加算</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元指導計画：発表時、履修者相互にコメントし合うとともに、教員よりフィードバックが行われる。</li> <li>・ ミニツッペーパー：次回授業冒頭においてフィードバックを行う。</li> </ul>									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新学習指導要領の内容まとめにおいては、実際に指導要領の記述を自ら確認しつつ作業すること。</li> <li>・ 単元指導計画の作成にあたっては、単元の内容や指導実践例について、十分に調査すること。</li> </ul>									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則篇』2018年。(ISBN: 978-4827815801)</li> <li>・ 参考書 西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計—パフォーマンス評価をどう生かすか—』図書文化社、2016年。(ISBN: 978-4810066692)</li> </ul>									
留意点	特になし									

科目名	アクティブ・ラーニングの理論と実践	科目コード	W61020	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
		科目ナンバリング	T-TLSP2-04. NK		30時間				
区分	資格関係科目	担当者名	松橋 俊輔			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>「アクティブ・ラーニング」を単なる方法論としてではなく授業づくりの基本的な考え方として学び、その視点に立った模擬授業を実施する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>								
到達目標	<p>1) 「アクティブ・ラーニング」の定義や背景について知る。</p> <p>2) 「アクティブ」な学びの実態や条件について考えを深め、「アクティブ・ラーニングの視点」を感得する。</p> <p>2) 「アクティブ・ラーニング」の視点をを用いた授業を計画・実施することができる。</p>								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス	・ 本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明							
第2回	基礎知識	・ 「学習」とは何か ・ 政策の背景							
第3回	アクティブ・ラーニングとは何か	・ アクティブ・ラーニングの背景と定義 ・ 生徒のどんな姿が「アクティブ」なのか [教科書第1章]							
第4回	アクティブ・ラーニングの授業づくり	・ 学びのメタ認知の必要性 ・ 授業展開の工夫 [教科書第3章]							
第5回	学級とアクティブ・ラーニング	・ 学級全体での学び合い ・ 小グループでの共同学習 [教科書第4章]							
第6回	アクティブな学びをつくる実践	・ 協同学習の様々な技法 ・ ジグソー法による授業づくり [教科書第5章]							
第7回	授業案の構想	・ 指導案の書き方の確認 ・ 参考文献の紹介 ・ ペアで授業案の構想							
第8回	模擬授業	・ 履修者による30分間の模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント						ディスカッション	
第9回	模擬授業	・ 履修者による30分間の模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント						ディスカッション	
第10回	模擬授業	・ 履修者による30分間の模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント						ディスカッション	
第11回	模擬授業	・ 履修者による30分間の模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント						ディスカッション	
第12回	模擬授業	・ 履修者による30分間の模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント						ディスカッション	
第13回	模擬授業	・ 履修者による30分間の模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント						ディスカッション	
第14回	模擬授業	・ 履修者による30分間の模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント						ディスカッション	
第15回	まとめ	・ 授業全体の総括							
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加度：30%</li> <li>・ 模擬授業：70%（模擬授業の実施：40%＋模擬授業の振り返りと指導案の改善：30%）</li> <li>・ ミニツペーパー：適宜加点</li> </ul>								
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬授業の振り返りと改善された指導案：次回授業時までに提出し、授業において教員からフィードバックがなされる。</li> <li>・ ミニツペーパー：次回授業冒頭においてフィードバックを行う。</li> </ul>								
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業前にシラバスに記載された教科書の各章を読んでくること。</li> <li>・ 模擬授業の実施にあたっては、授業計画のみならず、教材分析において十分な準備を行うこと。</li> <li>・ 模擬授業の実施後は、振り返りと指導案の訂正に十分な時間をかけて取り組むこと。</li> </ul>								
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書 杉江修治編『協同学習がつくるアクティブ・ラーニング』明治図書、2016年。（ISBN：978-4181989149）</li> <li>・ 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則篇』2018年。（ISBN：978-4827815801）</li> </ul>								
留意点	特になし								

科目名	教職実践演習	科目コード	W61019		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	4年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	T-TLPR4-01.NK							
区分	資格関係科目	担当者名	佐々木 正晴 立花 茂樹 松橋 俊輔 佐藤 萬昭				授業 形態	演習	オムニバス	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 教員免許状の取得に必要なとなる教科に関する科目、教職に関する科目等を履修し終えた段階において、これらの知識・技能を総合して、学校において生じる諸問題に対処できる力を養う。その際、それぞれの場面において特に求められる力を確認すると同時に、教員として持たなければならない知識・技能・態度等が確実に習得されているかどうかを確認し、これまで習得した知識・技能・態度等の総合化を図る。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	今まで大学で学んだことを踏まえ、教員として実務を行うことができる									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション		これまでの学修を振り返る						担当：松橋	
第2回	教育現場の問題		各自が実習中に感じた教育現場の問題点について報告する							
第3回	実践的問題と教育学研究の架橋 ①		第2回の発表内容を基に関心が近い者同士でグループを組み、関連する教育学論文を収集のうえ、解決策を考える							
第4回	実践的問題と教育学研究の架橋 ②		第3回で各グループがまとめた解決策について発表し、その是非についてクラス全体でディスカッションを行う							
第5回	教科指導の実際 ①		教科ごとに模擬授業を行う						担当：佐々木	
第6回	教科指導の実際 ②		現職教員と共に模擬授業の総括を行う							
第7回	特別活動指導の実際		学級における話し合い活動の進め方をロールプレイングで考える							
第8回	学級経営の実際 ①		学級開きと最初の一週間の取組について構想を練る（全体発表）						担当：佐藤	
第9回	学級経営の実際 ②									
第10回	生徒指導の実際 ①		いじめへの対応について考える（グループ討議・全体発表）							
第11回	生徒指導の実際 ②									
第12回	保護者との対応		多様化する保護者像の理解を図るとともに、教師の最大の理解者であり協力者である保護者との信頼関係の構築について、面談や電話応対時のかわり方を通して考える。（グループ討議・発表）						担当：立花	
第13回	個を生かす		一人一人の生徒は、それぞれの価値観に基づいて物事をとらえ、思考し、判断し、表現する存在であることを、1枚の写真のもつ情報やメッセージを読み取る、複数の写真をつなげて物語を構成するなどフォトランゲージの活動を通して問い直す。							
第14回	社会人の常識とマナー		社会人として知っておくべき常識やマナーを事例やロールプレイを通して確認し、4月からの社会人生活に備える。							
第15回	総括		<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの活動を通じて教師にとって必要なことを各自考え発表する</li> <li>教職履修ファイル「自己評価」欄の記入</li> </ul>						担当：全員	
評価方法及び評価基準	各担当者により出される課題：25% x 4名									
課題等	各担当者より適宜掲示にて指示する									
事前事後学修	「教職履修ファイル」によるこれまでの学修成果の復習（各回60分）									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>「教職履修ファイル」</li> <li>各受講者の免許種に対応した学習指導要領（最新版）及び同解説（最新版）</li> </ul>									
留意点	教職課程最後の科目となる。「教職履修ファイル」を基に、これまでの教職課程の内容及び教育実習の内容をよく振り返ったうえで受講すること。なお、本科目は不定期開講の集中講義となるため、日程については掲示板をよく確認すること。									

科目名	教育実習(事前・事後の指導を含む)(中学)	科目コード	W61013		単位数 時間	5単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	T-TLPR4-00. NK			150時間				
区分	資格関係科目	担当者名	佐々木 正晴・松橋 俊輔				授業 形態	実習	オムニバス	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕          〔キーワード〕:教育実習、現場体験〕          中学校や高等学校で教週間教師として実習を行う。その前後に事前指導と事後指導があり、事前指導では講義や現任教諭の講演を通して教育現場の理解を深め、過去の教育実習で生じた出来事等をもとに留意事項を確認する。事後指導においては、実習の反省、情報交換を行う。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>									
到達 目標	事前指導においては教育実習が支障なく進むよう留意事項を確認する。事後指導においては、教育実習での反省点を話し合い、教育現場および実習生の指導上の問題点について議論を行う。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考			
第1回	事前指導	教育実習の意義		第16回	実習	教育実習				
第2回	事前指導	教育実習における留意点		第17回	実習	教育実習				
第3回	事前指導	現役中学校教諭による講話		第18回	実習	教育実習				
第4回	実習	教育実習		第19回	実習	教育実習				
第5回	実習	教育実習		第20回	実習	教育実習				
第6回	実習	教育実習		第21回	実習	教育実習				
第7回	実習	教育実習		第22回	実習	教育実習				
第8回	実習	教育実習		第23回	実習	教育実習				
第9回	実習	教育実習		第24回	実習	教育実習				
第10回	実習	教育実習		第25回	事後指導	各自体験報告				
第11回	実習	教育実習		第26回	事後指導	問題点を抽出				
第12回	実習	教育実習		第27回	事後指導	問題点について議論				
第13回	実習	教育実習		第28回	事後指導	今後の課題を抽出				
第14回	実習	教育実習		第29回	事後指導	今後の課題について議論				
第15回	実習	教育実習		第30回	総括	これからの人生に教育実習を生かす				
評価 方法 及び 評価 基準	事前・事後指導出席点とレポート評価点(50%)と教育実習校返送評価点(50%)を総合的に勘案して評価する。特に、教育実習に自ら主体的に取り組んでいるかどうか、実習生として相応しい見識と能力を身につけているかどうか、の2点を重点的に評価する。									
課題等	授業で指示します。									
事前事後 学修	事前指導は3回に分けて、(1)教育実習中の諸注意、(2)現場の教員による教育現場の実際を中心に行う。 事後指導は2回に分けて、(1)各自の教育実習の総括、(2)今後の教育現場の理想の姿を探索する。									
教材 教科書 参考書	教育実習ファイル(事前指導初回に配布)									
留意点	事前指導、事後指導に正当な理由なく欠席すると、教育実習をしても単位を認定しないので注意すること。									

科目名	教育実習(事前・事後の指導を含む)(高校)	科目コード	W61014	単位数	3単位	対象学年	4年	開講学期	通年
		科目ナンバリング	T-TLPR4-00.NK	時間	90時間				
区分	資格関係科目	担当者名	佐々木 正晴・松橋 俊輔				授業形態	実習	オムニバス
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  〔キーワード：教育実習、現場体験〕  中学校や高等学校で数週間教師として実習を行う。その前後に事前指導と事後指導があり、事前指導では講義や現役教諭の講演を通して教育現場の理解を深め、過去の教育実習で生じた出来事等をもとに留意事項を確認する。事後指導においては、実習の反省、情報交換を行う。  〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>								
到達目標	事前指導においては教育実習が支障なく進むよう留意事項を確認する。事後指導においては、教育実習での反省点を話し合い、教育現場および実習生の指導上の問題点について議論を行う。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考		
第1回	事前指導	教育実習の意義		第16回	実習	教育実習			
第2回	事前指導	教育実習における留意点		第17回	実習	教育実習			
第3回	事前指導	現役中学校教諭による講話		第18回	実習	教育実習			
第4回	実習	教育実習		第19回	実習	教育実習			
第5回	実習	教育実習		第20回	実習	教育実習			
第6回	実習	教育実習		第21回	実習	教育実習			
第7回	実習	教育実習		第22回	実習	教育実習			
第8回	実習	教育実習		第23回	実習	教育実習			
第9回	実習	教育実習		第24回	実習	教育実習			
第10回	実習	教育実習		第25回	事後指導	各自体験報告			
第11回	実習	教育実習		第26回	事後指導	問題点を抽出			
第12回	実習	教育実習		第27回	事後指導	問題点について議論			
第13回	実習	教育実習		第28回	事後指導	今後の課題を抽出			
第14回	実習	教育実習		第29回	事後指導	今後の課題について議論			
第15回	実習	教育実習		第30回	総括	これからの人生に教育実習を生かす			
評価方法及び評価基準	事前・事後指導出席点とレポート評価点(50%)と教育実習校返送評価点(50%)を総合的に勘案して評価する。特に、教育実習に自ら主体的に取り組んでいるかどうか、実習生として相応しい見識と能力を身につけているかどうか、の2点を重点的に評価する。								
課題等	授業で指示します。								
事前事後学修	事前指導は3回に分けて、(1)教育実習中の諸注意、(2)現場の教員による教育現場の実際を中心に行う。 事後指導は2回に分けて、(1)各自の教育実習の総括、(2)今後の教育現場の理想の姿を探索する。								
教材教科書参考書	教育実習ファイル(事前指導初回に配布)								
留意点	事前指導、事後指導に正当な理由なく欠席すると、教育実習をしても単位を認定しないので注意すること。								

科目名	障害者教育論		科目コード	W71001	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-KYT01-01.						
区分	教職科目(特別支援)	必修	担当者名	奈良岡 裕			授業 形態	講義	単独	
授業の概要	障害児に対する教育の歴史の変遷をたどるとともに、種々の障害の特徴や係わりの基礎的・基本的事項を中心に、特別支援教育制度の推進について理解を深める。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] DPの3に関連し、CPの1に関連している。									
到達目標	1 世界及び日本の障害児に対する歴史の変遷を説明できる。 2 種々の障害の特徴について説明できる。 3 特別支援教育の理念と特別支援教育制度に関する基本的事項について説明できる。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	ガイダンス 「障害」とは、世界の障害児の歴史		・ガイダンス(授業の内容・進め方・評価の方法) ・障害の意味・世界の障害児教育の歴史							
第2回	日本の障害児教育の歴史と現行制度		・障害児教育の歴史、養護学校義務化そして特別支援教育へ							
第3回	インクルーシブ教育システムの構築		・インクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育							
第4回	就学先決定の仕組みと手続き		・就学決定の仕組みと手続き、特別支援教育の制度							
第5回	障害について 特徴と理解(1) 視覚障害、聴覚障害の理解と特徴と理解		・視覚障害、聴覚障害の障害特徴と教育の場							
第6回	障害について 特徴と理解(2) 知的障害の理解と指導・支援		・知的障害の障害特徴と教育の場							
第7回	障害について 特徴と理解(3) 肢体不自由、病弱の理解と指導・支援		・肢体不自由、病弱の障害特徴と教育の場							
第8回	障害について 特徴と理解(4) LD・ADHD・自閉症スペクトラム・情緒障害・言語障害の理解と指導・支援		・発達障害、情緒障害、言語障害、その他の多様状態を併せもつ子どもの理解と指導・支援							
第9回	通級による指導		・通級による指導の対象と指導内容の方法							
第10回	個別の指導計画と個別的教育支援計画		・個に応じた指導・支援計画作成の必要性 ・個別の指導計画と個別的教育支援計画の作成・活用							
第11回	教育課程、自立活動		・特別支援学校の教育課程 ・自立活動とは、自立活動の目標と内容(6区分と26項目)							
第12回	交流及び共同学習と居住地校交流		「交流及び共同学習」実施上の留意点、居住地校交流とは							
第13回	特別支援学校のセンター的機能 校内支援体制の整備		・特別支援学校のセンター的機能とは ・特別支援教育コーディネーターの役割							
第14回	早期発見・早期支援と連携 進学支援・就労支援と連携		・関係機関や保護者との連携							
第15回	試験とまとめ		・試験と障害児教育のまとめ					レポート 提出		
評価方法及び評価基準	講義への参加度(20%)、レポート(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。									
課題等	授業内容に関して「確認小テスト」を実施することから、各主題毎に重要事項の理解度を自己確認する機会にして学修を進めて欲しい。									
事前事後学修	主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。									
教材教科書参考書	教科書：『はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために 改定版』 ISBN978-4-641-22036 有斐閣アルマ 他に、適宜資料を配布する。 なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)、③同解説 各教科等編(小学部・中学部)、④同解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)は常時手許において参照できるようにすること。 参考書：『新版・キーワードブック 特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』 ISBN978-4-86342-255-1 クリエイツかもがわ									
留意点	紹介する参考図書を積極的に購読し、「特別支援教育」への関心を深めてほしい。									

科目名	知的障害者の心理 I		科目コード	W71002	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-KYT02-02.		30時間				
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	西沢 勝則			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>知的障害の概念及び知的障害児・者の心理に関する基本的事項を理解し、指導・支援を検討するための知識・技能を修得することを旨とする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	まず心身の発達、心理機能について基本的理解をし、知的障害のアセスメント方法やその課題等についても理解する。知的障害者一般についての特性を理解したうえで、個人ごとの特性に応じた具体的な指導のヒントを検討できるようになる。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	知的障害について		障害概念と知的障害概念の変遷							
第2回	知的障害と学校		知的障害を対象とした学校教育、インクルーシブ教育システム							
第3回	知的障害の理解		実態把握の進め方、実態把握から指導へ							
第4回	心理アセスメント		心理アセスメントの目的と方法、検査者の資格							
第5回	多面的な理解		心理検査の種類、情報共有の在り方							
第6回	知的機能のアセスメント		知能検査の種類と特徴、ウェクスラー式、ビネー式							
第7回	知的障害の感覚		感覚・知覚機能の基礎、感覚、知覚、認知、視知覚							
第8回	知的障害の運動機能と運動発達		運動機能の発達と運動・スポーツ、不器用さ							
第9回	知的障害の学習		オペラント条件付け、見本合わせ法、課題分析							
第10回	知的障害の記憶と注意		長期記憶と記憶方略、持続的注意							
第11回	知的障害の思考と言語		言語発達、言語コミュニケーション							
第12回	知的障害の数概念と問題解決		数概念の発達、認知課題における問題解決							
第13回	知的障害に関連する障害		ダウン症、てんかん							
第14回	知的障害と発達障害		自閉症、ADHD、LDと知的障害							
第15回	試験とまとめ		試験とまとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験（30%）、授業への参加度（40%）、レポート（30%） 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。									
課題等	講義で取り上げた内容から、各自テーマを選びレポートすることを課題とする。									
事前事 後学修	知的障害の特徴について理解を深めるためにも、一般的な発達について学ぶこと。									
教材 教科書 参考書	参考書 小池敏英・北島善夫 著 知的障害の心理学—発達支援からの理解— 北大路書房 2001 ISBN978-4-7628-2215-5									
留意点	小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。									

科目名	知的障害者の心理Ⅱ		科目コード	W71003	単位数	2単位	対象		開講	後期
			科目ナンバリング	W-KYT03-03.	時間	30時間	学年	2年	学期	
区分	教職科目(特別支援)	必修	担当者名	西沢 勝則				授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>知的障害児・者の行動類型、パーソナリティ、社会活動やコミュニケーション、生涯発達などを問題として考える。さらに人格的適応や社会適応を支援する方法として芸術や運動についても学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	知的障害児・者のパーソナル適応、集団への参加と家庭生活や学校生活への適応、コミュニケーション問題をとりあげ、その基礎となっている記憶・思考能力や言語能力などの認知機能の理解を深めるようにする。									
<b>授業計画</b>										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	パーソナリティと情動特性			パーソナリティ特性や情動的特性						
第2回	行動特徴と動機づけ			行動特徴及び動機づけとの関連						
第3回	社会性と対人関係			社会性・対人関係の基礎、共同注意、心の理論						
第4回	家庭、学校生活			情動理解、家族の人間関係、学校での人間関係						
第5回	集団生活への参加			乳幼児期の人間的ふれあい、集団生活への参加						
第6回	社会生活への参加と生活領域の拡大			地域交流と職業生活への準備、キャリア発達						
第7回	社会生活・作業能力			社会生活能力、作業・職業能力の測定法						
第8回	特別支援学校・学級での適応			学校教育施設や教育課程の編成と教育指導への適応性						
第9回	非言語的コミュニケーション			非言語的意思表現、サイン言語による意思伝達の方法						
第10回	言語的コミュニケーション			音声知覚の発達、話し言葉・文字による意思表現の方法						
第11回	生活とICTの活用			学習を支援するICT、生活を豊かにするICT						
第12回	芸術療法的指導			様々な芸術療法を知り、基本的技術を学ぶ						
第13回	スポーツ・レクリエーション指導			運動能力に応じた指導上の配慮事項						
第14回	エイジングと生涯発達を巡る問題			高齢化に伴う問題、人間関係、生きがい						
第15回	試験とまとめ			試験とまとめ						
評価方法及び評価基準	定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%) 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。									
課題等	講義で取り上げた内容から、各自テーマを選びレポートすることを課題とする。									
事前事後学修	講義内容に関連した具体的な事例に接する機会を設けるように努めること。									
教材教科書参考書	参考書 小池敏英・北島善夫 著 知的障害の心理学—発達支援からの理解— 北大路書房 2001 ISBN978-4-7628-2215-5									
留意点	小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。									



科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理		科目コード	W71004	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		W-KYT02-04.			30時間				
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	西沢 勝則			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕          肢体不自由児・者の生理・病理について脳性まひを中心に概説し、その運動障害、行動と心理特性について触れ、学習上や生活上の困難を克服・改善するための対応について検討する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの1、2、3に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	肢体不自由は四肢体幹の永続的な障害をいうが、中枢神経系の障害である脳性まひ及び骨関節等の障害に関する生理・病理や行動、心理について学び、自立活動の充実など教育の在り方を考える一助とする。									
<b>授業計画</b>										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション 肢体不自由児の概念と就学措置			授業の内容と進め方の説明、肢体不自由の語源と定義、障害の特性、高木憲次						
第2回	肢体不自由教育の歴史			肢体不自由教育の歴史、今日的課題						
第3回	運動機能の発達と障害			運動機能の発達、原始反射、歩行の獲得						
第4回	肢体不自由をもたらず疾患			脳性まひ、進行性疾患						
第5回	肢体不自由をもたらず疾患			二分脊椎、関節疾患、骨形成不全、運動発達遅滞						
第6回	重複障害			実態把握、重度・重複児、健康の保持						
第7回	脳性まひ児の運動・動作の特徴			脳性まひの運動・動作、身体の動き						
第8回	肢体不自由児の学習指導の内容と方法			肢体不自由教育における教育課程編成の基本方針・手続き						
第9回	肢体不自由児の学習指導の内容と方法			肢体不自由教育における学習指導の進め方・指導原理・留意点						
第10回	肢体不自由児の自立活動			自立活動の計画、課題・内容の設定、評価の視点						
第11回	肢体不自由児の自立活動			生活上の課題、学習上の課題 指導法の工夫						
第12回	肢体不自由児の心理			肢体不自由児の社会性、コミュニケーション、認知・思考						
第13回	肢体不自由児の心理			肢体不自由児の心理・行動上の困難、障害受容						
第14回	肢体不自由教育の課題			肢体不自由教育の課題と考え方						
第15回	試験とまとめ			試験とまとめ						
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験（30%）、授業への参加度（40%）、レポート（30%） 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。									
課題等	毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。									
事前 事後 学修	各回の内容に応じて、関連する情報を各自整理すること。									
教材 教科書 参考書	参考書 川間健之介 長沼俊夫 著 肢体不自由児の教育〔新訂〕放送大学教育振興会 2020 ISBN978-4-595-32171-9									
留意点	障害の有る無しに関わらず、子どもを見る、関わる、遊ぶ機会を大切にください。									

科目名	病弱者の心理・生理・病理		科目コード	W71005	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-KYT02-05.		30時間				
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	西沢 勝則			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>病弱とは、慢性疾患等のために継続して医療や生活規制を必要とする状態である。原因となる病気の種類も多様である。主な病気の概要と、生活規制や行動制限のある場合の対応、そして心理的側面への配慮などについて概説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	病弱の原因となる主な病気の概要や病弱児の心理的社会的な困難を理解し、病弱児の病気対処行動や学習上の課題等を克服・改善のための指導の在り方を考える。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	オリエンテーション、病弱の概念		授業の内容と進め方の説明、病弱の概念							
第2回	病弱教育の変遷・教育課程		病弱教育の歴史、教育の内容、教育の方法							
第3回	小児喘息		小児喘息の定義と病因、小児喘息の治療							
第4回	小児喘息の自立活動		小児喘息の自立活動の内容、留意点							
第5回	腎炎・ネフローゼ		腎炎・ネフローゼとは。長期入院児・短期入院児の問題点							
第6回	腎炎・ネフローゼの自立活動		腎炎・ネフローゼの病因、薬剤の副作用、自立活動							
第7回	進行性筋ジストロフィー		進行性筋ジストロフィーの特徴、医療上の方針と留意点							
第8回	進行性筋ジストロフィーの自立活動		進行性筋ジストロフィーの基本的な考え方、自立活動							
第9回	肥満、摂食障害		肥満児の定義、小児期肥満の病態生理、摂食障害							
第10回	肥満、摂食障害の自立活動		肥満や摂食障害の指導							
第11回	重複障害		重複障害、重度・重複障害、重症心身障害							
第12回	重複障害児の自立活動		重複障害児の実態把握、医療的ケア、自立活動の内容							
第13回	病弱教育における情報化		情報化の意義、病弱教育における情報化の課題							
第14回	発達障害		自閉症、ADHD、LDの特性の理解と教育的対応の在り方							
第15回	試験とまとめ		試験とまとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験（30%）、授業への参加度（40%）、レポート（30%） 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。									
課題等	毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。									
事前 事後 学修	準備学習時間の目安：1日当たり30分以上。課題発表担当の場合は1回につき準備時間2時間以上。									
教材 教科書 参考書	参考書 日本育療学会編著 標準「病弱児の教育」テキスト ジアース教育新社 2019 ISBN978-4-86371-493-9									
留意点	病気・障害の有る無しに関わらず、子どもを見る、関わる、遊ぶ機会を大切にしてください。									

科目名	知的障害者教育論		科目コード	W71006	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-KYT02-06.	時間	30時間				
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	山崎 誠悦			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 特別支援学校教諭免許取得に必要な履修科目である。知的障害教育に関する基礎的内容を解説する。知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級における指導にあたり、児童生徒の心理的特性や学習上の特性、教育課程の編成、教育内容、指導方法等について解説する。知的障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす教育活動を進めていく上での基本的な問題について検討する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。									
到達 目標	(1) 知的障害教育の対象や就学先決定の仕組みと手続きについて理解する。 (2) 知的障害のある児童生徒の心理的特性及び学習上の特性について理解する。 (3) 知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級における教育課程、指導内容、指導方法について理解する。 (4) 知的障害教育における指導に関する基礎的・基本的事項や指導上の留意事項について理解する。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	オリエンテーション 知的障害教育の歴史（1）		各回の授業内容と進め方及び本授業の評価方法について説明する。欧米における知的障害の問題成立から知的障害教育の成立・発展過程を概観し、欧米における知的障害のある児童生徒に対する教育の変遷についての理解を深める。							
第2回	知的障害教育の歴史（2）		日本における知的障害教育の成立・発展過程を概観する。戦後を中心に知的障害教育に関する教育制度の整備状況や教育実践の変遷について理解を深める。今日の知的障害教育の現状と課題について考察する。							
第3回	知的障害の定義・原因・発見		世界保健機関や米国における知的障害の定義及び分類を概説するとともに、日本における知的障害の定義について解説する。知的障害の原因と発見について理解を深める。							
第4回	知的障害のある児童生徒の心理的特性		知的障害のある児童生徒の障害の程度による身体面及び運動面、知覚面、行動面等の状態像や基本的心理特性について解説する。コミュニケーション面の発達について、知的機能面や対人関係面の発達、養育環境面等から理解を深める。							
第5回	就学先決定のあり方と教育の場		障害のある子どもの就学先決定の仕組みと手続きを解説し、知的障害のある児童生徒の就学先決定のあり方について理解を深める。知的障害のある児童生徒に対する提供可能な教育機能について理解を深める。							
第6回	知的障害特別支援学校における教育課程の編成		知的障害特別支援学校の目的及び教育目標について解説する。知的障害特別支援学校の小学部・中学部・高等部の特徴的な教育課程の編成について理解を深める。							
第7回	知的障害教育における指導の基礎的・基本的事項		知的障害のある児童生徒個々に応じた指導・支援のあり方に関して解説する。学習への動機づけや個人差への配慮、過剰学習、個々の教育的ニーズに即応した指導の基礎的・基本的事項について理解を深める。							
第8回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導（1）		知的障害特別支援学校における指導形態として、各教科等を合わせた指導について解説する。日常生活の指導と遊びの指導を取り上げ、指導のねらいや指導内容、指導計画の作成、指導上の留意点について理解を深める。							
第9回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導（2）		各教科等を合わせた指導として、生活単元学習を取り上げる。生活単元学習の指導のねらいや指導内容、指導計画、指導の展開における指導上の留意点について解説する。指導事例を紹介し生活単元学習の理解を深める。							
第10回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導（3）		各教科等を合わせた指導として、作業学習を取り上げる。作業学習の指導のねらいや指導内容、指導計画、指導の展開における指導上の留意点について解説する。指導事例を紹介し作業学習の理解を深める。							
第11回	知的障害教育における指導の形態 教科別の指導		知的障害のある児童生徒の学習上の特性及び教科指導と教育課程との関連、指導上の留意点について解説する。知的障害特別支援学校における各教科の指導事例を通し、知的障害のある児童生徒に対する教科別の指導の理解を深める。							
第12回	知的障害教育における指導の形態 自立活動の指導		知的障害特別支援学校の自立活動の目標や指導内容、指導計画の作成と内容の取り扱いについて解説をする自立活動の指導と実践事例を紹介し、自立活動の指導方法や指導上の留意点について理解を深める。							
第13回	知的障害特別支援学級の学級経営及び指導の実践		知的障害特別支援学級の学級経営について解説する。教育目標の設定、教育課程の編成、学級経営等の配慮事項について理解を深める。各教科等の指導にあたり、指導計画の作成、指導上の留意点について理解を深める。							
第14回	交流及び共同学習		交流及び共同学習の意義や学習の形態、内容、実施計画、実施上の留意点、評価等について解説する。知的障害特別支援学校や知的障害特別支援学級における実践事例を通し、交流及び共同学習の理解を深める。							
第15回	知的障害教育におけるキャリア教育及び進路指導		知的障害特別支援学校小学部・中学部・高等部におけるキャリア教育の意義やキャリア教育のねらい、内容等について解説する。知的障害のある児童生徒の進路指導について、実践事例を通し理解を深める。							
評価 方法及び 評価 基準	評価は、定期試験、課題レポート、授業への参加度により総合評価（100点、100%）をする。 定期試験50点、50% 知的障害教育に関する基本的な内容や専門的知識、指導・支援の手法に関する修得状況について評価する。 課題レポート30点、30% 授業後に出題する課題について、授業内容を踏まえ自分の考えを論理的に述べているかを評価する。 授業への参加度20点、20% 授業への参加度について評価する。									
課題等	授業後に出題する課題レポートについて、提出後再考する点やさらに調べて理解を深める点を付し、次時に返却する。									
事前 事後 学習	各回の授業について、授業内容におけるキーワードを提示する。提示されたキーワードを調べ授業に臨む。 授業後の課題レポート作成を通して授業内容の理解を深めるようにする。知的障害教育に関する基本的内容の習得をめざす。									
教材 教科書 参考書	河合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳編著 『特別支援教育総論—インクルーシブ時代の理論と実践—』、北大路書房 ISBN:978-4-7628-2949-9									
留意点	今日のインクルーシブ教育の構築をめざした教育の取り組みの中で、知的障害のある児童生徒個々の教育的ニーズに即応した指導・支援の基本的内容の習得に努めてください。 授業中に紹介する関連図書を調べ知的障害教育の理解を深めてください。									

科目名	肢体不自由者教育論 I		科目コード	W71007	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-KYT02-07.						
区分	教職科目(特別支援)	必修	担当者名	奈良岡 裕			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	肢体不自由教育の歴史、現状、児童生徒の理解、教育課程の編成、指導の内容・方法等に関する理論や知識を学び、肢体不自由教育の基本について理解を深める。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]DPの3に関連し、CPの1に関連している。									
到達 目標	1 肢体不自由教育の歴史の変遷や現状及び対象となる児童生徒の障害についてまとめる。 2 肢体不自由教育における自立活動の重要性や主な指導内容について説明できる。 3 肢体不自由教育における教育課程編成に関する基本的事項について説明できる。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題	授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)							備 考	
第1回	ガイダンス、肢体不自由教育の理念	・ガイダンス(授業の内容・進め方・評価の方法) ・障害とは								
第2回	肢体不自由教育の歴史	・整形外科の発展と肢体不自由教育								
第3回	肢体不自由教育の現状と仕組み	・肢体不自由の教育の場、就学制度と特別支援学校数、特別支援学級数、在籍児童生徒数等								
第4回	肢体不自由児の理解	・起因疾患と障害の理解								
第5回	肢体不自由の障害特性と教育の意義	・肢体不自由の障害特性に応じた教育の役割								
第6回	教育課程 I 教育課程編成の基本	・教育課程編成の手順と評価、法令								
第7回	教育課程 II 重複障害者等に関する教育課程の取扱い	・学校教育法施行規則と学習指導要領における規定								
第8回	教育課程 III 特別支援学校における教育課程編成	・多様性に応じた教育課程編成の工夫								
第9回	教育課程 IV 小・中学校における教育課程編成	・通常学級や特別支援学級における適切な学習								
第10回	肢体不自由教育の指導 I 自立活動	・肢体不自由の特性に応じた自立活動の具体的内容								
第11回	肢体不自由教育の指導 II 身体の動き	・感覚-運動、視知覚に働きかける学習								
第12回	肢体不自由教育の指導 III コミュニケーション	・コミュニケーションを豊かにする指導内容と補助手段の活用								
第13回	肢体不自由教育の指導 IV 医療的ケア	・医療的ケアの内容と実施に係る制度								
第14回	肢体不自由の特性に応じた指導	・感覚-運動、視知覚に働きかける学習								
第15回	試験とまとめ	・試験と肢体不自由教育のまとめ							レポート 提出	
評価 方法 及び 評価 基準	講義への参加度(20%)、レポート(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。									
課題等	授業内容に関して「確認小テスト」を実施することから、各主題毎に重要事項の理解度を自己確認する機会にして学修を進めて欲しい。									
事前事 後学修	主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。									
教材 教科書 参考書	教科書 安藤隆男・藤田継道編著(2015) 『よくわかる肢体不自由教育』 ミネルヴァ書房 ISBN 9784623072507 他に、適宜資料を配布する。 なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)、③同解説 各教科等編(小学部・中学部)、④同解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)は、常時手許において参照できるようにすること。 参考書:『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』 ISBN978-4-86342-255-1 クリエイツかもがわ									
留意点	紹介する参考図書等を積極的に購読し、「肢体不自由教育」への関心を深めてほしい。									

科目名	肢体不自由者教育論Ⅱ		科目コード	W71008	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-KYT03-08.	時間	30時間	学年		学期	
区分	教職科目(特別支援)	必修	担当者名	奈良岡 裕			授業形態	講義	単独	
授業の概要	肢体不自由者教育総論Ⅰで学んだ基本を踏まえ、授業見学や映像視聴及び演習等を通して、肢体不自由教育に求められるより具体的な知識、技能、教育観について理解を深める。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] DPの3に関連し、CPの1に関連している。									
到達目標	1 肢体不自由教育の実践を見学し、特別支援学校や特別支援学級での学習活動についてまとめる。 2 肢体不自由教育における個々の実態に応じた具体的学習課題を選定することができる。 3 肢体不自由教育の課題や展望に関する基本的事項についてまとめる。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)								備考
第1回	特別支援教育の基本的な考えと現行制度	・特別支援教育の理念、教員の専門性、地域支援、現行制度								
第2回	保護者や関係機関との連携	・特別支援学校と隣接医療機関、福祉機関との連携								
第3回	キャリア教育・進路指導	・キャリア教育の定義と意義、進路指導								
第4回	指導の実際Ⅰ 脳性まひ	・特別支援学校における脳性まひ児の学習								
第5回	指導の実際Ⅱ 重度・重複障害(1)	・重度・重複障害児の実態理解								
第6回	指導の実際Ⅲ 重度・重複障害(2)	・「最近接領域」、重度・重複障害児の教育基盤の形成								
第7回	指導の実際Ⅳ 進行性筋ジストロフィー	・特別支援学校等における進行性筋ジストロフィーの学習								
第8回	指導の実際Ⅴ 二分脊椎、先天性骨形成不全	・特別支援学校等における二分脊椎、先天性骨形成不全の学習の実際								
第9回	教材・教具の開発と工夫、自助・介助具の理解と活用	・自作教材・教具の作成と活用、自助・介助具の機能と活用								
第10回	肢体不自由の青年期の指導と進路指導	・キャリア教育と進路指導								
第11回	肢体不自由の青年期のからだづくりと健康と自立活動	・からだの変化、動かし方の対応・配慮と課題								
第12回	肢体不自由教育に関連する福祉制度等の活用	・肢体不自由教育を支える諸制度とその活用								
第13回	インクルーシブ教育システム構築における肢体不自由教育	・肢体不自由に応じた合理的配慮の観点								
第14回	肢体不自由教育の課題と展望	・障害者基本法の改正等と学校教育								
第15回	試験とまとめ	・試験と肢体不自由教育Ⅱのまとめ								レポート提出
評価方法及び評価基準	講義への参加度(20%)、レポート(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。									
課題等	授業内容に関して「確認小テスト」を実施することから、各主題毎に重要事項の理解度を自己確認する機会にして学修を進めて欲しい。									
事前事後学修	主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。									
教材教科書参考書	教科書 安藤隆男・藤田継道編著(2015) 『よくわかる肢体不自由教育』 ミネルヴァ書房 ISBN 9784623072507 他に、適宜資料を配布する。 なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)、③同解説 各教科等編(小学部・中学部)、④同解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)は、常時手許において参照できるようにすること。 参考書: 『新版・キーワードブック 特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』 ISBN978-4-86342-255-1 クリエイツかもがわ									
留意点	紹介する参考図書等を積極的に購読し、「肢体不自由教育」への関心を深めてほしい。									

科目名	病弱者教育論		科目コード	W71009	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-KYT02-09.		30時間				
区分	教職科目(特別支援)	必修	担当者名	山崎 誠悦			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 特別支援学校教諭免許状取得に必要な履修科目である。病弱教育に関する基礎的内容を解説する。病弱教育の意義及び児童生徒の心理的特性や学習上の特性について解説する。病弱特別支援学校を中心に、教育課程の編成、個別の指導計画、指導方法、指導上の留意点等指導・支援に関する基礎的・基本的事項を解説する。病弱教育対象の児童生徒の主な病気を取り上げ、児童生徒理解と教育的支援のあり方について理解を図る。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>(1) 病弱教育の対象となる病気と医療・教育的支援内容について理解する。 (2) 病弱・身体虚弱児の心理的特性及び学習上の特性について理解する。 (3) 病弱特別支援学校における教育課程、指導内容、指導方法について理解する。 (4) 病弱教育における指導に関する基礎的・基本的事項や指導上の留意事項について理解する。</p>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	オリエンテーション 病弱教育の意義		各回の授業内容と進め方及び本授業の評価方法について説明する。病弱と身体虚弱の定義について解説する。病弱教育の意義について理解を深める。							
第2回	病弱教育の歴史		日本における病弱教育の成立・発展過程を概観する。戦後の病弱教育に関する教育制度の整備状況を解説する。今日の病弱教育の現状と課題について考察する。							
第3回	就学先決定のあり方と教育の場		病弱教育対象の児童生徒の病気の種類の推移を概観する。就学先決定の仕組みと手続きを解説し、就学先決定のあり方について理解を深める。病弱・身体虚弱児に対する提供可能な教育機能について理解を深める。							
第4回	病弱・身体虚弱児の心理的特性		病弱・身体虚弱児に見られる悩みや不安等を取り上げ、心理・行動面の特徴的な状態像について理解を深める。発達段階から見た心理社会的問題点について考察する。							
第5回	病弱特別支援学校における教育課程の編成		教育課程の意義及び教育課程に関する法令や基本的な要素を解説する。病弱特別支援学校における教育課程の具体例を紹介し、教育課程の編成について理解を深める。							
第6回	病弱教育における各教科の指導		各教科の指導にあたり、児童生徒の学習上の特性、指導目標の設定、指導内容の精選、指導計画の作成、指導上の留意点について解説する。病弱・身体虚弱児に対する教科指導の基礎的・基本的事項について理解を深める。							
第7回	病弱教育における自立活動の指導		自立活動の指導にあたり、実態把握、指導目標の設定、指導内容の選定、指導計画の作成、指導上の留意点について解説する。自立活動の指導に関する基礎的・基本的事項について理解を深める。							
第8回	病弱・身体虚弱児のキャリア教育及び進路指導		病弱教育におけるキャリア教育及び進路指導について解説する。病弱特別支援学校高等部における就労体験等を含む職業教育の具体的取り組み、卒業後の追指導や関係機関との連携・支援について理解を深める。							
第9回	白血病の児童生徒の理解と教育的支援		白血病の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第10回	ネフローゼ症候群の児童生徒の理解と教育的支援		ネフローゼ症候群の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第11回	気管支ぜんそくの児童生徒の理解と教育的支援		気管支ぜんそくの児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第12回	単純性肥満の児童生徒の理解と教育的支援		単純性肥満の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第13回	筋ジストロフィーの児童生徒の理解と教育的支援		筋ジストロフィーの児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第14回	心身症の児童生徒の理解と教育的支援		心身症の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第15回	重症心身障害児の理解と教育的支援		重症心身障害児の一般的特徴や状態像について概説し、重症心身障害児の理解を深める。医療的ケアの取り組みについて解説する。各教育の場における学習や生活指導等に関する教育的支援について理解を深める。							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>評価は、定期試験、課題レポート、授業への参加度により総合評価(100点、100%)をする。 定期試験50点、50% 知的障害教育に関する基本的な内容や専門的知識、指導・支援の方途に関する修得状況について評価する。 課題レポート30点、30% 授業後に出題する課題について、授業内容を踏まえ自分の考えを論理的に述べているかを評価する。 授業への参加度20点、20% 授業への参加度について評価する。</p>									
課題等	授業後に出題する課題レポートについて、提出後再考する点やさらに調べて理解を深める点を付し、次時に返却する。									
事前事後 学修	各回の授業について、授業内容におけるキーワードを提示する。提示されたキーワードを調べ授業に臨む。授業後の課題レポート作成を通して授業内容の理解を深めるようにする。知的障害教育に関する基本的内容の習得をめざす。									
教材 教科書 参考書	宮本信也・土橋圭子編集 『病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版』、金芳堂 ISBN:978-4-7653-1627-9									
備 考	今日のインクルーシブ教育のシステム構築をめざした特別支援教育の取り組みの中で、病弱・身体虚弱児個々の教育的ニーズに即応した指導・支援の基本的内容の整理に努めてください。保健士研修及び生命倫理(人生相談)について考えてください。									

**留意点** 印刷した指導・支援の資料の内容の修訂に努めてください。保護者理解及び専門性、入職などについて考えたい。  
授業中に紹介する関連図書を調べ病弱教育の理解を深めてください。

科目名	視覚障害者教育総論	科目コード	W71015	単位数	1単位	対象	2年	開講	前期
		科目ナンバリング	W-KYT01-10.	時間	30時間	学年			
区分	資格関係科目	担当者名	佐々木 正晴				授業	講義	単独
						形態			
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  視覚障害者によるその機能形成を図る心理的手法を探る。受講生はアイマスクを着用し、視覚障害状況を体験し障害状況の特性を捉え個別特性に応じた援助行動を探索する。  〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>								
到達目標	受講生一人一人が、視覚障害者教育の状況を捉え、教育活動の在り方について構想を作り、個々の障害状況に対してその機能形成を図る実験的手法を作成する力をつける								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	眼疾患とは(全盲、弱視)	医学的・生理学的観点から視覚障害状況を分類する							
第2回	視覚障害者のコミュニケーション	視覚障害状況における言語機能活動の特性について考える						ディスカッション	
第3回	盲学校の教育課程	盲学校の独自性と普通学校との共通性を整理する						ディスカッション	
第4回	視覚機能形成の具体例	視覚障害状況とその機能形成過程に関わる実験例を紹介する						ディスカッション	
第5回	視覚検査と保有視覚の活用	視覚検査で示された保有視覚を活用する手法について述べる						ディスカッション	
第6回	視覚障害児の認知と指導	視覚障害児の認知特性に基づく指導の実際と留意点						ディスカッション	
第7回	視覚障害幼児と保護者への早期支援	視覚障害幼児の生活空間を全体的に捉え、将来との結びつきを考え						ディスカッション	
第8回	個別の指導計画と教科支援計画、総括	視覚障害状況の個別性を踏まえた教科活動支援の実際、総括							
評価方法及び評価基準	講義で毎回小レポートを課する(15回×3点=45点)。翌週提出する大きなレポート3回(3回×10点=30点)。最終16回目試験(25点)。レポート、試験はテーマに応じて論理的に構成されているか、評価する。								
課題等	毎回行う小レポートは講義時に解説。大レポートは提出後に解説する。								
事前事後学修	毎回の授業最後にレポートを課し、次回授業冒頭で解説する。レポート作成の所要時間の目安は3時間である。								
教材教科書参考書	なし。プリント配布。								
留意点	心を込めてレポートを書くこと。 連絡先：sasaki@hirogaku-u.ac.jp オフィスアワー(木)14:20~15:50								



科目名	聴覚障害者教育総論		科目コード	W71011	単位数 時間	1単位 16時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-KYT01-11.						
区分	教職科目(特別支援)	必修	担当者名	立花 茂樹			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>聴覚障害特別支援学校における教育を中心に、聴覚障害教育の制度や歴史および現状、聞こえの仕組みやその障害、聞こえを補う手段、聞こえの障害がもたらす発達上の特徴等について理解する。そのうえで、聴覚障害の早期発見と保護者支援、聴覚障害教育における教育課程や指導方法等についての学びを深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2及びカリキュラムポリシーの1に関連する</p>									
到達 目標	<p>1 聴覚障害教育の歴史を、聴覚障害教育に尽くした人物と主な業績および指導方法の変遷から説明することができる。</p> <p>2 聞こえの仕組みとその障害、聞こえを補う手段、聞こえの障害がもたらす発達上の特徴等について説明することができる。</p> <p>3 聴覚障害児教育の教育課程や指導方法の概要等について説明することができる。</p>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	聴覚障害児教育の歴史		聴覚障害児教育の発展に尽力した人々とその業績、指導方法の変遷等を通して我が国聴覚障害教育の歴史を理解する					毎回の授業終了時に予習シートを配布する		
第2回	聞こえの仕組みと障害の種類		聞こえの仕組み、障害を受けた部位による聴覚障害の分類とその特徴、障害による聞こえの型について理解する					小テスト1		
第3回	障害の早期発見と保護者支援		聴覚障害の早期発見と保護者支援の必要性を理解するとともに新生児聴覚検査法について理解する							
第4回	オーディオグラムの見方と平均聴力損失の計算方法および補聴器の取扱い		オーディオグラムの見方と平均聴力損失の計算方法について理解し、四分法で平均聴力を算出する 補聴器の保守について理解する							
第5回	聴覚障害者の言語の獲得と言語使用の特徴		聴覚障害であることによる言語の獲得の困難と言語使用の特徴について理解する					小テスト2		
第6回	聴覚障害とコミュニケーション		聴覚障害児の指導で用いられている手話、筆記、聴覚口話、指文字、キューサイン等のコミュニケーション手段の長所と短所を理解する							
第7回	聴覚障害教育の教育課程		聴覚障害特別支援学校(小～高等部)における教育課程編成の基本的な考え方と各教科等の指導の工夫について理解する					小テスト3		
第8回	聴覚障害教育における自立活動		聴覚障害教育における自立活動の内容と指導上の留意事項について理解する					小テスト4		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>○予習シートの作成20%、小テスト40%、レポート課題40%の割合で評価する。</p> <p>・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。</p> <p>・小テスト：講義開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。</p> <p>・レポート：「聴覚障害教育と手話」に関するレポート(1200字程度)により評価する。</p> <p>※予習シート及びレポートは、別添の評価基準表により評価する。</p>									
課題等	返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。									
事前事 後学修	<p>予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。</p> <p>復習：授業を振り返り、小テストに備える。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。</p>									
教材 教科書 参考書	教科書：用いない。 随時、資料を配布する。									
留意点	特別支援学校小・中学部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説(総則等編・自立活動編)は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。									

科目名	重複障害者教育総論		科目コード	W71012		単位数	1単位	対象学年	3年	開講学期	後期
	科目ナンバリング		W-KYT01-12.		単位時間	16時間					
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	立花 茂樹				授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>障害が重複し、重度である障害児であっても、それぞれに多様な教育的ニーズを抱えていることを理解し、学校教育として何を目標に、どのような内容・方法で教育・支援を行っていくべきかを学ぶ。講義に加えて、重複障害、重症心身障害児の日常を記録したドキュメンタリー映画等の視聴を通して、重複障害の特性と実態把握、心理と教育課題、さらには医療や福祉との連携の大切さについて学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2及びカリキュラムポリシーの1に関連する</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 重複障害の定義を説明できる。</li> <li>2 重複障害児に対する教育の現状、重複障害者等に関する教育課程編成の取扱いの概要を説明できる。</li> <li>3 重複障害児の障害状況に応じた課題学習と具体的指導方法を選択することができる。</li> <li>4 教育と医療や福祉との連携の必要性を説明できる。</li> </ol>										
授業計画											
回	主題		授業内容						備考		
第1回	重複障害の定義と関連する用語		学習指導要領に示す重複障害の定義を理解する 重度・重複、重症心身障害等関連用語を理解する						毎回の授業終了時に予習シートを配布する		
第2回	障害の重複・重度化の現状		障害の重複・重度化の現状と教育の場を理解する						DVD 「盲ろうの教育」視聴 視聴レポートを課す		
第3回	「盲ろう」の疑似体験		盲ろう者とその介助者役の両方を体験することを通して、重複障害者の心理と支援の基本を理解する						小テスト1 視聴・疑似体験レポートの提出		
第4回	重複障害児のコミュニケーション		発信行動と受信行動の考えを基にした重複障害児のコミュニケーションの定義とコミュニケーション関係を築くための基本的な係わり方を理解する								
第5回	重複障害児の教育課程		重複障害児に対する教育課程の編成（訪問教育を含む）の基本的な枠組みを理解する								
第6回	重複障害児の指導		指導課題の設定と指導内容・方法—「感覚と運動」「学習・概念行動」・「記号操作」—を知る						小テスト2		
第7回									小テスト3		
第8回	医療的ケアの現状と課題まとめ		特別支援学校等における医療的ケアの基本的な考え方と実施体制の在り方を理解する 重複障害児の指導において大切にしたい視点を整理する						小テスト3		
評価方法及び評価基準	<p>○予習シートの作成20%、小テスト40%、レポート40%の割合で評価する。</p> <p>・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。</p> <p>・小テスト：授業開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。</p> <p>・レポート：ドキュメンタリー映像の視聴レポート及び盲ろうの疑似体験レポートにより評価する。</p> <p>※予習シート及びレポートは、別添の評価基準表により評価する。</p>										
課題等	返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。										
事前事後学習	<p>予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。</p> <p>復習：授業を振り返り、小テストに備える。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。</p>										
教材教科書参考書	教科書：用いない。 随時、資料を配布する。										
留意点	特別支援学校小・中学生部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説（総則等編・自立活動編）は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。										

科目名	発達障害者教育総論		科目コード	W71013	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-KYT01-13.	時間	30時間				
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	立花 茂樹			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨] LDやADHD、高機能自閉症等の発達障害について、医学的な診断基準も参考にしながら、文部科学省の示すそれぞれの障害の定義や判断基準を確認し、障害特性を認知や行動の視点から捉えた基本的な教育的対応のあり方を学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2及びカリキュラムポリシーの1に関連する									
到達 目標	1 発達障害の定義と判断基準及び障害特性について説明することができる。 2 発達障害児への基本的な教育的対応と指導方法について説明できる。 3 代表的な発達・知能検査法についてその特徴を説明できる。 4 「個別の指導計画」作成を通して障害特性に応じた指導法を考えることができる。 5 インクルーシブ教育を理解し、今後の発達障害児教育の在り方について自身の考えを述べるができる。									
<b>授業計画</b>										
回	主題		授業内容					備考		
第1回	特別支援教育と発達障害		「特別支援教育の推進」に示す特別支援教育の理念を理解する 特別支援教育で新たに指導の対象となった発達障害について知る					毎回の授業終了時に予習シートを配布する		
第2回	自閉症・高機能自閉症の理解		文部科学省の自閉症・高機能自閉症の定義と判断基準等を通して障害特性を理解する							
第3回	自閉症・高機能自閉症の指導		TEACCHプログラム、構造化、視覚的情報の活用等を中心とした自閉症・高機能自閉症の生徒への教育的対応と指導の実際を知る							
第4回										
第5回	LD（学習障害）の理解		文部科学省のLD（学習障害）の定義と実態把握のための基準（試案）を通して障害特性を理解する					小テスト1		
第6回	LD（学習障害）の指導		難易度を考慮した課題提示、スモールステップ化など学習障害の学習・行動特性に応じた教育的対応と指導の実際を知る							
第7回										
第8回	ADHD（注意欠陥/多動性障害）の理解		文部科学省の注意欠陥/多動性障害（ADHD）の定義とそこに示されている不注意あるいは多動性—衝動性症状の具体的な行動上の特徴を理解する					小テスト2		
第9回	ADHD（注意欠陥/多動性障害）の指導		ソーシャルスキルトレーニング、環境調整などADHDの生徒への教育的対応と指導の実際を知る							
第10回										
第11回	二次的障害の発生と対応		二次的障害発生の原因なる背景を理解し、セルフエスティームを高める基本的な対応の仕方を知る					小テスト3		
第12回	発達・知能検査法		心理アセスメントに用いる発達・知能検査法（K・ABC検査、WISC知能検査、新版K式発達検査）の特徴と概要を学ぶ					レポート課題の提示		
第13回	校内体制の確立と関係機関の連携		校内委員会の役割と特別支援教育の全体計画の立案など、校内指導体制の確立と関係機関との連携の在り方を理解する							
第14回	個別の教育支援計画と個別の指導計画		個別の教育支援計画と個別の指導計画の違いとその策定・作成の手順を理解し、個別の指導計画の作成を経験する（演習）							
第15回	インクルーシブ教育の現状		合理的配慮と基礎的環境整備の現状とインクルーシブ教育システムの構築の課題を理解する					小テスト4 レポート及び演習資料の提出		
評価 方法 及び 評価 基準	○予習シートの作成20%、小テスト40%（小テスト30% + 演習課題10%）、レポート40%の割合で評価する。 ・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。 ・小テスト：授業開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。 ・レポート：「インクルーシブ教育システム、発達障害者教育の充実」をキーワードとするレポート（1200字）により評価する。									
課題等	返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。									
事前事 後学修	予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。 復習：授業を振り返り、小テストに備えること。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教材 教科書 参考書	教科書：用いない。 随時、資料を配布する。									
留意点	特別支援学校小・中学部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説（総則等編・自立活動編）は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。									

科目名	教育実習（特別支援）		科目コード	W71014	単位数 時間	3単位 45時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-KYT03-14.						
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	立花 茂樹			授業 形態	実習	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>知的障害、肢体不自由、病虚弱を教育領域とする特別支援学校で二～三週間の教育実習を行う。 教育実習生としての心構えを持つことができるよう、講義や映像資料を通して教育現場への理解を深めるための事前指導を行う。 事後指導においては、実習全般及び研究授業等についての反省を踏まえて、改めて目指す教師像を確立する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの1と関連する</p>									
到達 目標	<p>1 教育実習に臨むための留意事項を確認し、教育実習生としての心構えを持つ。 2 教育実習生としての立場を踏まえながら、積極的な教育実習生生活を送る。 3 将来の特別支援学校教員としての意識を高めるとともに必要な専門性を身につけ、あるべき教師像を持つ。</p>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	事前指導① 教育実習（特別支援教育）の意義		ガイダンス 教育実習の目的と意義を確認する					手引を配布する		
第2回	事前指導② 特別支援学校教員の一日		教職員の勤務、サービス、授業、学級事務等についての理解を深める							
第3回	事前指導③ 学習指導案の作成		サンプルを基にした学習指導案の作成と発表・協議を行う							
第4回	事前指導④ 模擬授業		作成した学習指導案による模擬授業の実施・協議を行う							
第5回	事前指導⑤ 記録の作成と活用		実習日誌の記入や記録の取り方・活用の仕方を理解する							
第6回	特別支援学校における教育実習		実習校における教育実習（研究事業・授業研究を含む）に臨む							
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回	事後指導① 教育実習の成果と課題		教育実習により得た成果と課題等をまとめる					レポート作成		
第14回	事後指導② 実習の体験発表		「レポート：特別支援学校の教育実習で学んだこと」の報告会を行					レポートの提出		
第15回	事後指導③ まとめ		「目指す教師像」をまとめる（履修ファイルへ綴じ込む）							
評価 方法 及び 評価 基準	教育実習校の評価（70%）と事前・事後指導の演習・発表・レポート（30%）を加えて総合的に判断する。									
課題等	体験発表の際には、示された様式のレポートに加えて研究授業で作成した学習指導案や用いた教材・教具等を用意すること。									
事前 事後 学修	予習：シラバスを見て、次時の内容に関する「実習の手引」の該当箇所を読み、考えをまとめて授業に臨むこと。 復習：その日の学習内容に関するポイントを振り返りシートにまとめること。									
教材 教科書 参考書	教科書：用いない。 教 材：学内資料『教育実習（特別支援学校）の手引』を配布する。									
留意点	実習校の校長、教頭、教育実習主任、指導教員の指導・助言を素直にかつ誠実に受け止めるよう努めること。 社会人としてふさわしい態度・服装・言葉遣いに留意すること。 「豊かな発想、確かな指導力」を念頭に、教員としての資質能力を高めるよう、積極的な実習生活を期待する。 ※特別支援学校学習指導要領とその解説は常に持参すること。									